

放送人の会

No.100
2024.02.09

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel.&fax03-3221-0019 Mail info@hosojin.jp
発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉 編集長 菅野高至、鈴木典之、逸見京子、田中典子、松尾羊一、
事務局 深尾隆一 須齋恵美子

新しい放送人、

その未来像は何かを考えて

放送人の会 会長 今野 勉

『会』が『会』になる

僕らが放送人の会を作った時は、結構それなりの問題意識が会員一人一人にあつて、それは勿論一つではなかった。

日々の制作現場で視聴者向けに番組を作っている、片方で外から批評にさらされる…新聞の批評とか、評論家とか、批評家懇談会とかがある。ドラマだとかやっぱ芸術性だけが評価される。だから、最初に目指すところは芸術みたいところになる。片方では視聴率。視聴率1%しか取れないと大衆100万人つかまえても駄目だと言われて、千万人10%が相手の番組を作っているのを忘れるなどいわれる。いかに大衆に受けたかだけで評価される。

二つは全く別世界みたいに扱われるのを、僕らはどう考えればいいのか、酔っ払うと話になってみんな悩んでいた。

新宿あたりに、いろんな放送局やプロダクションの関係者がたむろするバーが幾つかあつて、そこで話をしていううちに、何となく「酒飲みながらも何でもいいから、こういう集まりとか『会』があるといいね」って話になった。これが、そもその放送人の会の始まりだった。

だから、放送とは何かを考えようとか、そういう大きなテーマがあつて生まれたというよりは、それぞれの放送人が、それぞれに抱えている問題を、とりあえずみんなが集まって吐露し合う、そういう場を作りたいという

のが切っ掛けになって、放送人の会を作ろうとなつていった、そう僕の中では記憶されている。

自発的で個人的

昔と違って、放送局とかプロダクションとかがみんな非常に真つ当になつてきたために、「これひどいじゃないか、まさかそんなことやるの、大問題だ!!」というのがなくなつてきて、丁々発止、議論を交わす場面が非常に少なくなつた…。それは良いことでもあるし、物足りないところでもある。

僕が会長になって、途中で気になつてきたのは、だんだん「何かをすべきか」という議論になつて、「新しい放送」とか「正しいテレビのあり方」とか話になる。それはそれぞれが考えればよいことで、それぞれが喋ればいいので、『会』として旗を掲げて』というのは、しないようにしようというのが、そもその始まりだった。

だから、僕は意識して会自体もそうならないうちにしていく。

となると、自発的ということがすごく大事で、自発的であつて個人的であること、局の立場とかプロダクションの立場とかを背負うのではなく、どこにしようか放送人としての問題意識を誰かと話してみたい、そういう風に「話せる会」が始まりだったのである。

このことは、会員みんなが確認しておいた方がいいと思つている。

とまかく喋つてみる

この会は制作現場の声を中心にして放送を考えることになつている、だが現場の声がちょっと足りないのだ。会員も足りないけど、声として出てくるのが足りない。やっぱ現場の声は一番問題を孕んでいるから、声を拾わないといけない。

今、放送の現場が、どういうふうになつてきているのかを、誰も正確には掴めてなくて、そういう情報を提供するのが、「放送人の会」とその会報」ではないだろうか。

だから、会員が会員じゃない人と、また会員の新人なり同輩なりが先輩と何か話をする、そういう機会に会報の「座談会」を利用するのはどうだろうか。最も基本は話したいと思ふのか否かなのだが、ともかく集まつて喋つてみよう。

たんなる飲み会と刺激的な企画

新年度のテーマは「新しい放送人と、その未来像は何か？」を考えることです。

これからは、どういう環境でどういう生活の仕方をするのか、技術も新しくなつた、メディアも昔とは違つている、その中で放送人は今、何を考えればいいのかという基本のところを掴まえるような座談会を構えたい。

たとえば、会員じゃない放送人、なかなか面白い番組を作っている人を、各局別々に何人か集まつて貰つて座談会をやる。本音で語るためには、NHKも含めて会社に属している人間が、あからさまに何か意見を言うというのはそう簡単にはいかないのは当然のことと察してあげて、匿名は匿名でいい。名前出してもいいっていう人と匿名の人と、会としてス

タンスをしつかり決めてかからないといけ
ない。結構、刺激的な企画なのだから…。

そういう座談会を年代別や世代別で、2回
か3回続けるとか。10人くらいの規模に絞つ
て、今回は関西地区の人とか、今回は各局1人
ずつ参加とか、今回は各局・各プロダクション
から指名で開きますとか。

あるテーマを決めて、1か月に1回、3か月
続けて3回開催するとか。

いよいよとなったら、「たんなる飲み会」で
もいい。現場の人がどうしているのか、何を考
えているのか、何を悩んでいるのか、何をした
いか、そこに放送人の会がどう応えられる
か…。結果、会員が増えてくれれば良いのだ
から。
(12月20日・会長談より)

※編集部・注記：昨年の12月20日(水)
午後1時よりテレビマンユニオンで、小川総
務委員長と菅野とで伺った、会長のお話を
「巻頭言」にまとめたものです。文責は菅野
です。

特集の巻 緊急アンケート

会員増へあなたの知意を！

「若い会員が少なくて…どう増やす
かが課題！やっしゅひの妙案は…」

長井 展光

これは多くの団体で言われていることだと
思います。(私、とある大学の校友組織の委員
です。)

「若い人は何か入ることによってメリット
がないと来ない。例えば名刺交換会でビジネ

ス拡大の場を作るとか…」

これも、放送という「文化」を軸に人が集
まり、意見、情報を交換し、その活性化に資す
るようにしたい、という会の趣旨とはちよっ
と違う「即物的」な気がします。

一方で放送人の会は、放送に携わる、あるいは
関係のある、関心のある人々の間で、どれ位
認知されているでしょうか？ 別に「ライブ
ル視」という気は毛頭ありませんが(私、そっ
ちにも入っています)、「ギャラクシー賞」が多
くの局、番組制作者の目標になり、励みになり、
知名度が高い放送批評懇談会に比べると「放
送人グランプリ」はそう知名度が高くないこ
とは認めざるを得ないと思います。良い賞な
のにもつたないことです。

また、放送業界の現役を退いた方々の交流
の場、という側面でも(私はこの機能も大切に
しなければならぬと思います)、民放クラブ
が各地に組織があって、各局の総務人事系が
定年を迎える人々に紹介しているのに比べる
と定常的に新入会員を増やす機能に乏しいこ
とも認めざるを得ないと思います。

これと言ってすぐ実効性のある妙案がある
訳ではありませんが、まず「グランプリ」の知
名度をあげる、会の存在感を示すことが必要
ではないでしょうか。そのためにはまず、①現
在の他賞と時期が重なる「年度」での選考から
「暦年」に変え、発表・贈賞式の時期を前倒し
する、②NHK問題で実施したセミナー形式
のものを適宜開催して知名度をあげる、③周
知のため、放送記者会とどうお付き合いする
かの研究、から始めてみては如何でしょうか。
若輩者(私、65歳になりますが…)が生意氣
なことを書きました。すみません。

会員増をどうして

「せしゅひ放送現場の声を!!」

総務委員長 小川 和之

放送人の会が新しい出発を始めるに当たり
会員増の課題は、三つあります。

① 一点目は、退会者を増やさない
現在加入されている会員の皆様に引き続き支
えて頂けるような活動を推し進める。

その試みのひとつが昨年の9月に初めて実
施した会員同士の懇親会、お陰様で好評で、引
き続き今後も活動を続けてまいります。

また、放送人の会はありきたりの組織論が
通じる組織ではありません。ボランティアに
支えられたい意味の「いい加減」な組織で
す。緩やかで大らかなこの組織に、一般的な
組織の理屈は馴染みません。

確かに組織運営上の改善点はありますが、
私を知る限りそれを理由に退会した例はあり
ません。

② もうひとつは、新規会員の勧誘
これが難しいのですが、自ら入会を申し込
みたくなるような組織を目指し活動する。

私も立場上、日頃から機会ある毎に、勧誘活
動を続けていますが、『放送人の会に加入して
なんになるのか、加入する魅力やメリットを
感じない。』とのリアクションが多い。

③ 更にもうひとつ大切なのは、
入会した会員をこんなはずではなかった
と失望させないこと。

私の体験談を申し上げますと、
一度会っただけの理事に誘われて気軽に入
会しましたが、当初かなり面食らいました。

お誘い頂いた理事からは入会手続きが済ん
だ後になって『事務局にも色々問題がありま
す、会った時にお話します』と言われましたが、
残念ながら、入会手続きは機械的に事務局員
が対応。いつ何をしたら良いのかわからず、お
誘いを受けた理事と初めて会うチャンスがそ
の年の忘年会でしたが、ドタキャンでお目

かかれませんでした。その後はコロナ禍もあ
つて…会った時の『お話し』とは、一体何だ
つたのでしょうか。

歓迎されていないのか、簡単に入会した我
が愚を恥じ退会しようと思っていました。し
かし会員の皆様の中には、経験も見識もある
方々が大量おられたので思い留まった次第で
す。

結果的には、当時の総務委員長をはじめ、事
務局担当の理事の皆さんから実地にいろいろ
教えて頂いたおかげで現在があります。

新規会員に対しては私が体験した負の轍を
踏まない為できるだけ丁寧に対応するよう
に心がけています。

そして、仕事をしながら気付いたのは、放送
人の会は、何かをしたければ自ら動いて自ら
で実行するボランティア集団だと言う現実で
す。

ああすべき、こうすべきと言う人はいても
『言うは易く行うは難し』で、それを実際に実
行するとなると、仕事を持っていたり、家庭の
事情で出来ない、難しいということになり、実
際の活動はボランティア精神にあふれた方々
で支えられ、特定の人に仕事が集まっている
という状況が続いています。

私自身も総務委員長を引き受ける際に、所
属する会社に相談して事務局に出る毎週水曜
日と、事前にスケジュールが決まっている理
事会や総会などは年間を通して仕事を入れな
いようにしてもらっています。

そうした中で、あのコロナ禍の中であつて
も、一旦発言したことには責任を持って実行
するボランティア精神あふれた方々に支えら
れて、なんとか事務局運営を円滑に進めてい
つております。

各委員会やプロジェクトを担う皆様も、自己犠牲を払いながらも、責任感を持って日々ボランティアで経費削減を図り、実を粉にして活動されています。頭の下がる思いです。

少ない人数で作業を合理化し、少しでも資料の安い会議室を探して経費を節減したり、安易な外注を抑え、自らで対応するなど、可能限り出するを抑える努力も続けています。

例えば事務局自ら率先して会議用のZoo m機器を費用をかけずに工夫してやりくりしたり、印刷なども放送会館のプリンターを使わずに経費を削減できる機器を探してきたり、これまで機能しなかった事務局長不在の時代に比べて破格の費用削減に寄与していますが、これ以上の会費の減収は避けたいところです。

また、現在、支出の一部を大山基金に助けてもらっていますが、いずれ原資が底をつきます。その場合の過ごし方も重要項目のひとつとして検討を始めています。

地味でも放送人の会の体力に応じた、実現可能な具体策を考えなければならぬ時にきています。

そこで最後に、内向きの組織論ではなく、現状を踏まえつつ新しい出発に向けた、もっと放送人の会を知ってもらう、外に踏み出す具休案のひとつを簡単に記します。

新しい会員に加入して頂くことは会費を増やすという問題だけではありません。高齢化する放送人の会の今後の発展のためにも若い力が必要です。

その上で個人的に模索しているのは…。

今現場で放送を担っている若い放送人が何を考え、何を悩み、何を目指し、何を求めているのか、我々にできることは何か、我々の経験

が活かせる道はないのか、彼らとのふれあいの場を作れないかということ。

例えば、各放送局とのネットワークを構築する意味でも各放送局やプロダクションの現場の放送人に参加してもらって、『今現場で何が起こっているか』

『ネット時代に放送はどうしたら生き残れるか』などといったテーマで、グループディスカッションをしてみる。

時には先輩後輩の自由闊達な交流の場を設ける。手始めにこれまでのグランプリ受賞者との定期的な飲み会の場から始めてもよいと思います。

必要なのは具体的な実践です。会員の皆様、各位におかれましても、前向きで建設的な意見、アイデアを、提供頂けますようお願いいたします。

* * * * *

「放送人の会」これから

前 英樹

「放送人の会」はこれからという方向を目指すべきか。

これは結構難しい。何故かというところ、この会を立ち上げた時の公初発のエネルギーが枯渇して、次の段階に入るためのエネルギー充填が出来ていないからだ。実はこれは立ち上げ段階でイメージされていなければならなかったのに、立ち上げの段階でそれを考えた人がいなかったのではないかと思われる。

後を追って参加した人々には、そのようなイメージはなく先行者の後追いをしているだけ何とかなると思っただけだったのだ。気が付けば、立ち上げの時のエネルギーは尽き、フオロワーには先行者のような求心力

はない。ではどうするか。

三つの選択肢解散

明確なイメージがなく、具体的なアクションプランがないのであれば、その組織の存在理由はない。その組織はその理念も持続力もないのだから役割は終わった。立ち枯れるのはカッコ悪いから自ら解散してはどうか。

① サロン化 親睦交流に徹する

会員はそれぞれにこの世界で仕事をし、その上に立つてこの世界あるいはそれを超えた見識や情報を蓄積してきた。そのような人間関係は矢張り貴重である。人間交流の場としての存在理由はあるはずだ。事業として行動する力が枯渇しているのなら、人的交流の場として年数回(春夏秋冬の全体会合と、月1回程度のテーマ別会合)勉強会を開催するのはどうか。必要経費は参加者が負担する。テーマ設定はその都度考える。

②

いや、やっぱりプラス思考で、現在の構造・方向を基本とし「新しい」要素を加えてエネルギーを補充しよう

・ 例 社団から任意団体に移行(復帰)

・ 財政方針の明確化

管理費用要素と事業費要素の整理 事業費部分の収化入化の追求

・ 会員の事業(プロジェクト)参加要請

・ 理事会と事業(or運営)委員会の分割

理事会平会の意思決定: 10人規模?

運営委員会or事業行動の計画・運営・広報: 現理事会規模

※ いずれにせよ「今後の会の在り方」を継続

検討し「会」の刺激・活性化を二〇二四年度の全体テーマとしてはどうか。

* * * * *

会員増強、何を為すべきか

業者員長 渡辺 敏史

会員数が年々減っている。こうした団体は、放送人の会に限らず、多い。

ただ会費を納入するだけの会員は、早晩、会から去っていく。かつて、つてを頼りに勧誘した会員も、放っておかれれば、これも去っていく。直截な言い方をすれば、以下の要件を満たすことが必要だろうだ。

- ① 会員になれば面白い
- ② 会員になれば仕事があまくいく
- ③ 会員になれば、知己が増える
- ④ 会員になれば誇らしい

そのため何が必要かといえば、今いる会員の活動力をアップすることしかない。いうまでもなく、この会の活動は、会員一人一人が、自分のやりたいことをこの指とまれ風に輪を広げながら続けていくことにある。放送番組センターとの共催事業という収益を伴う事業もあるが、この会の事業は、会員の自主自立の活動が命だ。やっつと思えばやれるし、やらなければそれまで、サボろうと思えばサボれる。当然、この会では活動に対価が支払われることはないから、活動を活性化するために必要なのは、個人的な活動意欲の喚起と会内外からの活動評価だけである。やって「よかった」と、自分が思い、やってもらって「よかった」と他人に言われるからやるのである。会員個々の活発な活動が会の外にいる仲間を誘引する以外に、会員を増やす方法はないのである。

では、具体的なアイデアはないのであろうか。あるとすれば、こういうことか。ひとつは、日常的にホームページを使った交流を活性化することである。

ホームページ内に「会員交流サイト」を設け、自由投稿をベースに、会員同士の討論や意見交換、情報交換を日常的に行い、その内容を定時的に区切って会報に反映させる。つまり、会員であれば、常に自分の意見を表明し、仲間の意見も確認できる環境を作ったかどうか。何時でも自分の意見が表明できて、面白い。他人（ひと）の意見を自分の仕事に生かせる。意見交換や討論で知己を得られる、等々。さらには、この交流サイトの運営に、新しい若い会員に参加してもらったことも活性化に資するのではないか。

放送人の会の活性化に関する提案

「活動の活性化」～全員参加へ「情報の共有」および「運営面の改善」について

千葉 邦彦

この度の意見募集は誠に時宜を得ていると思います。このような「会の運営上の重要なテーマ」について会員全員に意見を求め、それを会の運営に反映させようという意義深い企画が「会報一〇〇号」の節目に組まれたことに深い敬意を表したいと思います。

〈全体状況について〉

私が総務委員・事務局担当だった二〇一七年度～二〇二〇年度も既に新規入会者数を退会者数が上回っていました。21年度～23年度はその傾向がさらに顕著になっています。退会理由は逝去、その他さまざまです。現在、会員の平均年齢は70歳代後半と推測され

ます。年齢を考慮して退会を考える人も増えると思われれます。一方、新規入会ですが、かつて私は20数名の方々に入会の勧誘をしました。その結果、入会してくださったのは小川和之さん(現・総務委員長はじめ3名の方々の一人)でした。そのうちお一人は「参加している意味を感じない」との理由で退会されました。入会を躊躇された方々は、「会費が高い」「入会して何ができるのかイメージが湧かない」「会員が錚錚たる人たちばかりで気後れする」などを理由に挙げられました。「会費が高い」はシビアな問題です。長く会員である先輩方からも

「会費、ちよつと高いよね」という声を何度か聞きました。確かに、学会の年会費はだいたい5千円です。他所は他所ですが、今後、「値下げ」は検討すべきかも知れません。ただ、「値下げ」をし、現会員にも適用されれば、それは会の財政基盤を直撃し、身を切る改革に直面することになるでしょう。現状では会費収入総額と事務局運営関係支出総額がほぼ同規模で、何か事業をするためには放送文化基金の賛助金(放送人の証言)、放送番組センターの助成金(名作の舞台裏 など)および大山勝美基金の取り崩し(放送人グランプリ)ほか事業全般に頼るといふ構図です。基金設立時に5千万円あった大山基金は効果的に使われ、約2千万円を残す状況です。今後の事業展開の内容によつては、早い時期に使い終える可能性もあります。そこで、財政改善のために考え得るのは会費の「値上げ」ですが、会員の賛同を得るのは簡単ではないと思われれます。財政再建には「値上げ」、会員獲得には「値下げ」、相反する選択肢です。大変悩ましいこの問題を解決し得る処方箋はあるにはあるのですが、稿を改めたいと思います。

〈活動の活性化～全員参加へ〉

予てより、会の案内リーフレットには、「正会員は会のいずれの企画にも参加でき、委員として活動することが可能です」と明記されています。何にでも参加できる自由が確保されている、誇るべき一行です。このことは入会時の約束(契約条項)で、何人からも妨げられるものではなく、守られねばなりません。ときに、意思疎通の齟齬や事務的な手違いが原因で、「入っていたプロジェクトから連絡もなく外されている」「総会議案に名前が載っていない」、ホームページのメンバー表に見当たらない」といったことも起こり得ますが、かかる

ことのないよう、全ての関係者が目配りを怠らないことが大切です。そもそも、会員は皆意欲をもって入会したはずですから、プロジェクト参加が一部の会員の特別なことではなく、「会員は必ず何らかのプロジェクトに委員として参加している」べきです。そうなれば、どの会員も実感と自信をもって会員勧誘活動に臨めます。さらには、プロジェクトを超えて情報交換をする場、「事業運営会議(仮称)」を設け、一層の活性化を図るとよいと思います。

〈情報の共有〉

当会の会報は他に類を見ないきわめて優れた広報媒体です。これにより、会員は会の活動状況を詳しく知ることができます。一方に、理事会議事録がありますが、率直に申して、現在の議事録には審議や報告のいわば「段取り」しか書かれていません。「〇〇理事より詳細な説明がなされ、了承された」という類の記述があるのみで、中身が分かりません。こういうスタイルの議事録は他団体にも散見されますが、ジャーナリズムや文化・芸術に携わってきた人間により構成される当会はそれに倣わず、最も丁寧で手厚いスタイルを採るべきだと思います。

います。議事録で分らなければ、議案や関連資料そのものを読みたいと思うのが人情ですが、「理事会で配布された資料は事務局に保管しているのだから、一覧になりたい方は事務局までお越しください」となっています。地方在住の会員や諸事情で来室がままならない会員はどうしたらよいのでしょうか。現状では、いかなる内容の議案がどのように審議されたのか知ることができません。改善を求めたいと思います。議事録の方は、たとえば、NHKの理事会議事録が参考になります。これには「議事経過」という詳細な記録が載っています。私も経験がありますが、詳細な議事録を作成するのは一大作業です。しかし、議事録は公式な記録として重要なものであり、できる限り精細なものを作成して共有し、後々に残すべきです。また、資料は会員のみホームページ上で閲覧できるようにすればよいでしょう。何が行われているかを知って初めて、会の活性化のための具体的な提案ができ、新規会員の勧誘も自信をもってできると思います。

〈運営面の改善〉

会運営の要である理事会を構成する理事の選出にあたっては、選挙による以上、得票数を公開すべきです。得票数1位から15位までは自動当選、16位以降も第一義的に得票数を尊重し、その上で会における活動状況(客観的に立証できる)を必要があれば、を勘案して選挙するルールですので、票を得た全員の得票数を公開するのは基本です。また、理事会出席状況を判断材料にするのであれば、出席状況の公開が前提です。以前のように、議事録には人数だけでなく、出席理事の氏名を記載すべきです。出席理事名の記載のない議事録は世に稀です。なお、最近の議事録によれば、理事総数33名に対して出席理事数は平均22名

(電話参加を含む)で、3分の2の出席率です。これは数学的には、3分の1の理事が毎回出席していない、あるいは各理事は3回中2回の出席である、ということの意味します。関連して、理事の総数に言及します。会員数一〇〇名弱の団体に33名の理事は多く、見直しを図るべきでしょう。方程式はありませんが、20名以内が適正と考えます。定款記載の理事総数は改訂できます。出席可能な人数を念頭に設定すればよいと思います。

以上、少し踏み込みましたが、これらを改善・解決することにより、会運営の一層の健全化と活動の活性化が図られ、会員数の増(少なくとも維持)に繋がると信じます。

☆ ☆ ☆ 特集の目録 温故知新 ☆ ☆ ☆ 会報第一号の抄録

一九九七年12月2日「放送人の会」の創立集が千代田放送会館で開かれた。九州、中国、京阪などからも含め二一〇名が参加。その様子を伝える記事を二二掲載する。なお、会報第一号の発行日は98(平成10)年2月1日。温故知新、会の現状を考える参考にして頂きたい。(一部、読み易くするために、改行等の修正を加えています。)

◇ ◇ ◇ 野崎茂準備室長

会の発足までの経緯を説明

会長の挨拶に先立って、野崎茂創立準備室長から、全国の制作者たちに参加を呼びかけるに至った経緯について、概要次のような説明があった。

九十六年のはじめ頃、TBSオウム問題でテレビが世論の指弾を受け、「他メディアのバッシングと放送界の沈黙」という構図が繰り返されているときに、数人の有志が集まり、放送の現状を抱える根本的な問題について、語り合い発言していくべきではないかと話し合った。

メディアの荒廃は、放送人自身の精神の荒廃、倫理の空白を招いていくだろう。放送界の先行世代は、この現状を自分の痛みとして捉え、自らを検証しつつ、今日の放送をめぐる文化状況に向かつて発言しなければならぬのではないかと。

また、われわれの放送についての経験や思いを、整理して次の世代に伝える義務もあるのではないかと。そのために放送人の横断的な精神交流の場が欲しい、という趣旨だった。それは単に親睦の場であるだけではなく、放送という視座から今日の文化状況に向けて発言する拠点であり、放送にながしか新しい価値を付与していく文化装置にしようというものだった。

顔ぶれは、牛山純一、大山勝美、大蔵雄之助、平原日出夫、野崎茂、藤井潔、今野勉、村木良彦、吉村育夫など。

会の名称の原案は、放送人アカデミーだった。大衆文化の担い手である放送人と、そこから少し距離を置いた学問芸術の象徴アカデミー。二つの接点に位置する会という意味だった。

会の組織原則を、キーワードで表現してみようということになり、こちらの話めは早く進んで、それが四超だった。あくまでももの作りの人々を中心にするというのが大前提だが、超組織、超地域、超世代、おまけに超現代。これで行くということになった。仲間と呼びかけ、発起人(のちに世話人)が四十

人あまり集まって、設立の気運は高まった。九十七年三月に第一回発起人会を開催。ここで会の名称についていろいろ異論が出た。アカデミーなんて照れくない、というのだった。結局、『放送人の会』というきわめてまともな線で落ちついた。

九十七年初夏、川口幹夫氏に、『放送人の会』の初代会長をひきうけて頂けないかとお願いした。川口氏は会の趣旨に賛同され、さらにご自身の抱負もお持ちだった。氏の華麗なる転身が実現し、今日の創立総会に至った。

◇ ◇ ◇ 川口幹夫会長挨拶

自覚と自律の自由人へ

「放送人の会」会長を募けるに際し、組織ではなくて放送全体の運命に係ってくるから前より(※1)も任務は非常に重い、と自覚しています。

今はスタート、ロケットでいえば第一段ロケットだ。まず地球の引力から何とか外れなければならぬので大変なエネルギーを要する。私は何しろ昭和25年(※2)です。ですから、放送を始めたのは、28年のテレビが始まる時はフロアディレクターでスタジオを這い回った経験があり、そうしたキャリアの長さから多少のことは知っているから、それを私のエネルギーにして、専らロケットのエンジンの役割をし、本体はむしろ若い人、特に今現役で色んな仕事をやってる方にやって貰いたい。

前から、色んなものの垣根を無くさなければいけない、制作に当たっている個々が自由に発想をし、意見を言いつつ自由で自分の行く方向を決めていく、というのが一番理想的な形だと思っていたから、そうする為に敢

えてロケットのエンジンの役割をするのが一番いいんじゃないかと、引き受けた訳です。

NHK会長に就任してから間もなく、例のムスタンの事件・やらせ事件というのが起こり、その後もオームの事件とか或いは樺さんの発言事件とか次々あり、私も何回か国会に呼ばれた。私が終始一貫して言ったのは、「問題を語って行くと、放送を創っている者・報道を担当している者が、どのような形で自らを律し、自立をしながら自分の仕事を果たして行くのかという、個人の問題に帰着致します。組織の問題とか機構の問題とか方法の問題とか考えないで、むしろ個人に還して行くということを探らなければならないと思います」と。

未だにその考え方は変わっておりません。で、現在NHK民放そして製作会社で、非常に多くの人たちが働いているけれども、そのセクションで働いている一人一人が自覚自立し自らを律することが出来るように、放送を創っている側の人間が集まって、何かの折りに、どのようにサジェスチョンし、どういう風にアドバイスすることが出来るか、「放送人の会」は、それを話し合うという場にした。

(中略)

決して、打って一丸となって何かに当たるとかいうことを考えない。

一人一人が一人一人の力を最大限に発揮する。(中略)個人が何を考え、どういう風にするかということを考えれば、そのこと自体がいい放送を作り出す力になるに決っている。そういう個人の力が花のように拡がってきて百花繚乱という形になるのが、より良い放送の在り方ではないかと。

この「放送人の会」もできたらそういうものを助けるための組織にしたい。

(中略)

「放送という素晴らしい存在…やっていてある種の興奮を感じる媒体…、折角我々の前にあるこの素晴らしい媒体を、何とか最大限に生かすことを、試みたい。」

皆さんの「協力」と「援助を一つよろしくお願います(拍手)。(要旨)

編集部・注記

※1…NHK会長(97年7月30日に退任)

※2…NHK入局、昭和25(一九五〇)年

☆☆☆☆

能登半島は優れ、十勝は劣る

中崎 清栄

「おめでと〜」と親族が笑顔で集まりだした元旦、午後4時過ぎでした。

突然、障子がガタガタしだし、グラグラ、ガツチャン…

「ええ? 何」

ガタガタ、ガタガタ、グラグラ…

「キヤー地震だ、逃げよう」

「ええ? 何? 逃げる?」どい(…)

正月気分はすっ飛び、「怖い! まだ揺れている…」と言いつつ、テレビからけたたましい緊急音と切羽詰まった女子アナの声「すぐに逃げて下さい、津波が…:4m」

「ええ? 津波? この上、また?」

震度5の金沢がこうでしたから、震度7の能登はどんなだったでしょう。

全方向に家が揺れ、物すべてが音を立てて落ち、柱が折れ、瓦がガラガラ落ちる…:家の下敷きになった方も多く、今も被害の全容が

はつきりしません。

我が家のお隣には、珠洲市から高齢の父親は道が一時避難してきました。

「家は全壊、野菜を作るハウスに2晩いたが…:停電と断水、寒さ、どうすることも出来ない」と…。それでも、2日滞在して「家や畑が心配だ」と戻ってゆきました。

弟宅でも「断水が続く」と、義母とその妹が中能登から避難しています。改めて周囲に能登出身の人が多く暮らしていたと、実感しています。

二〇二二年の9月の能登地方の地震(震度5弱)、二〇二三年6月(震度6弱)後も余震がひっきりなしに続いた挙句、今回の震度7が決定打となって、多くの家は耐えきれず、聞こえてくるのは「家は住めない、この先は分からない」ばかり。珠洲市市長も「8・9割が壊滅かほぼ壊滅状態」と話しています。

半島の特徴で、山道と海岸沿いの数少ない道路は、土砂崩れや隆起の為に方々で決壊。支援物資は届けにくく、点在する多くの集落が孤立しています。

過疎化と高齢化に悩み、色々努力してきた町興しは、すべて水の泡。取材で出会った方々の困った顔と「能登消滅」の言葉が浮かびます。

会社にはネット各社から多数の記者やカメラマンが応援にきていますが、取材陣にも現地の人と同じ苦労がいられます。

1番は道路、奥能登まで約3時間と計算して動いてきましたが、陥没や隆起で道はガタガタ、しかも渋滞。今は夜中の3・4時に出るの日に帰る取材。

その上、雪が降るとより危険。泊まる宿もありません…。水も、食料も、補給ガソリ

ンも持参、トイレは使えません。

それでも2週間経つとポツポツ、取材陣が地域の人と出会う感覚が、優しさや助け合いの話が、放送されるようになってきました。

「こんな大変な時にも、他人を思いやるのは…:能登は優しや、土までも、だなあ」と胸の奥が熱くなります。

私も能登のあつたか話を伝え「大変だけど、みな能登に戻ってきて下さい! 頑張ろうよ」と言いたいです。

(二〇二四年1月15日記)

能登半島地震と放送

木原 毅

元日に北陸を襲った大地震は半島地域での災害対応について考えさせられることばかりだった。人口減少時代の複層的な課題である。

それにしても気になったのは輪島と並んで被害の大きかった珠洲市。震災に関する報道で珠洲市が地上デジタルTV放送の先進地域だったことについて(僕の見聞した限りでは)まったく言及されていないのはどうしたわけだろう。当時の放送関係者にとつてみれば珠洲、イコール地デジだったはずである。

二〇一〇年7月24日の新聞記事を拾ってみよう。(引用は日経新聞電子版)

《1年後の地上デジタル完全移行に先駆け、石川県珠洲市と能登町の一部で24日正午、アナログ放送を終了した。計約八八〇〇世帯ではアナログ放送が視聴できなくなった。両市町では1年以上かけてアナログ放送の停止実験や住民への告知を繰り返しており、大きな混乱はないとみている。(中略)能登半島の先端に位置する珠洲市は三方を

日本海に囲まれ、ほかの地域との間で電波の混信が起きにくいため、地デジ完全移行の先行実施地域に選ばれた。二〇一一年7月に全国一斉に完全移行するのに先立ち、トラブルの有無などを検証する。

同市は希望者に地デジを視聴するための簡易チューナーを無償で貸し出すなど、移行支援を実施。「ほぼ100%の住民が対応を済ませた」という。》

またNHK放送文化研究所の月報によると《市の職員や地元電器店が区内を細かく回って各世帯の地デジ対応状況を調べ、アドバイスした》とある。つまり僻地であるがゆえの、官民あげての壮大な実証実験だったわけである。

加えて地デジ化には、地域情報の充実や高齢者にも優しいデータ放送の展開も盛り込まれていたはず。これから先、政策が安易な集落の放棄などに繋がらないよう今後もしっかりと注視していかなければならないだろう。

ところで大津波警報が発令された際、NHKの山内泉・中山果奈両アナウンサーがひときわ強い口調で、

『命を最優先に逃げてください!』

『今すぐ高いところや高いビルに逃げて!』

などと、呼びかけたことについて賛否両論あつたようだが、これが正しい方策だったことは図らずも翌日の羽田で起こった航空機炎上の脱出劇で明らかになったのではないか。

ここ数年、JALに搭乗した人が必ず目にするのは、離陸時に上映される機内安全のためのビデオ。これも途中から強いトーンで「緊急時は乗務員の指示に従ってください! 脱出時には荷物を持たないでください!」と呼びかけるものである。海外メディアのなかには、自国の航空会社がコメディータッチの動画で安

全を喚起するのと比較にして、短時間で全員脱出した際には、このビデオでの強い警告を称揚するものもみられた。聞けば柳田邦夫氏の監修によるものだという。

地震報道に戻ろう。NHKのラジオ第2でも、発災後すぐさま災害対応放送の多言語放送に切り替え英語のときは「EVACUATE」と強い口調で呼びかけていた。

NHKの経営は決まった方針として26年度から現行ラジオ3波を2波に減らそうとしているが、改めて聞きたい。大丈夫か？ 本場に議論を尽くしたのか、公共放送とは何なのかもう一度立ちどまる必要があるだろう。孤立集落では、TV中継局が電源喪失、停電でスマホは充電できず、唯一の情報源となったラジオの電池を求めて住民が必死で山越えしたことなどが伝えられた。

その後、NHKではローカル情報について12月に終了したBSの3チャンネルを急遽当てて対応していたが、将来の南海トラフ地震に備えるならBS3の再考が必要ではないか。

最後にラジオのはなしをもうひとつ。首都圏の民放ラジオでは各局とも発災以降すぐに報道特番に入ったが、その前日、大晦日のニッポン放送の特番について触れておきたい。偶然だが、同局は31日の19時から『関東大震災から100年…112歳の証言と未来への提言』を放送していた。これは神奈川県逗子で津波を体験し生き抜いた女性(昨年10月に亡くなった)の話を中心に大規模災害にどう向き合うかを集めたもの。こうした喚起もメディアの大きな役割であることを書き留めておきたい。



名演出家と名脚本家の共通点

——鶴橋康夫、山田太二両氏を悼む

鈴木嘉一

30年以上に及んだつき合い

昨秋、テレビドラマの世界で大きな足跡を残した2人が相次いでこの世を去った。

10月9日に誤嚥性肺炎のため83歳で亡くなった演出家・映画監督の鶴橋康夫さんと、11月29日に老衰のため89歳で亡くなった脚本家・作家の山田太二さんである。私は1980年代半ばから読売新聞記者として放送界取材し続け、2人と知り合った。30年以上も公私両面でおつき合いさせていただいただけに寂しく、欠落感埋めようもない。

この間、2人が作ったドラマはほとんど見てきたと断言できる。それぞれの作品評や作家論は読売新聞紙上にとどまらず、放送専門誌などでも執筆してきた。

読売テレビの東京支社にいた鶴橋さんとは放送評論家の佐怒智二夫さん、脚本家の市川森一さんや池端俊策さん、NHKの深町幸男ディレクター、高橋康夫プロデューサー、三枝健起ディレクター、TBSの堀川とんこうプロデューサーたちと放談会を開くなど、よく飲んだ。鶴橋さんは一緒にいると楽しく、その場では笑いが絶えなかった。世間には「周囲を暗くする、明るい人」、つまり自分だけがはしやぎまくり、周囲から浮いてしまう人がいるが、親しみを込めて「鶴さん」と呼ばれた鶴橋

さんは、まさしく「周囲を明るくする、明るい人」だった。

山田さんには何度もインタビューに応じていただき、2010年、読売新聞の「時代の証言者」シリーズで連載した計27回の聞き書きはその集大成になった。全部で5回のロングインタビューは、のべ20時間近くに及んだ。本人は「過去は振り返らない。懐かしさにおぼれそうになりますから」と語っていたが、自伝的な要素の濃い聞き書きとなった。

脚本家で初めて朝日賞を受賞した

山田太二さん(左)と筆者



(二〇一五年)

その連載が終わった後、「打ち上げをしましよ」と山田さんを誘った。いずれも日本民間放送連盟賞の最優秀に選ばれた「せつない春」や「本当と嘘とテキーラ」など、テレビ東京で5作を数えた「山田太二ドラマスペシャル」の佐々木彰プロデューサーにも声をかけ、魚がうまい渋谷の店で歓談した。山田さんは「私はお酒の席で面白いことを言うタイプじゃないんで……」と謙遜しながらもよくしゃべり、忘れたがたい一夜となった。

2人の計報に接した後、私はそれぞれを悼悼する原稿を執筆した。鶴橋さんについては

まず、毎月1回寄稿している読売新聞の放送時評欄「アンテナ」(10月19日付)で「映像の魔術師」鶴さんを悼む」と題し、主に人となりを書いた。「月刊ドラマ」2024年1月号

では、「演出家と脚本家の理想的な関係」と題したように、鶴橋さんと名コンビを組んだ池端さん、自ら「鶴橋学校の生徒」と称した野沢尚さん(2004年死去)との関係を軸にして追悼した。さらに、放送専門誌「GALLA」2月号では「陽気に「組」を率いた『映像の魔術師』という評伝を書いた。

山田さんについては、「中央公論」2月号で「普通の人」を深く、温かく描いた名匠」と題した評伝を執筆した。また、3月に発行される「GALLA」4月号の山田太二追悼特集にも加わるよう依頼されている。

それでも、2人の作品や人間性について書ききれなかった。ここでは、すでに活字になった追悼と重複しないことを書きたい。

一度も組まなかった2人

鶴橋さんと山田さんの共通点は言うまでもなく、放送界のあらゆる賞に輝いたことである。文化庁芸術祭賞、ギャラクシー賞、放送文化基金賞、日本民間放送連盟賞、テレビ大賞などの作品賞の受賞歴に加え、2人とも芸術選奨の新人賞や文部科学大臣賞をはじめとする個人賞も多かった。

山田さんは名脚本家として、同い年の倉本聰さんと並び称された。鶴橋さんは、1台のカメラによるオーロケという独特の演出スタイルを確立する前、倉本作品を一度だけ演出したことがある。笠智衆主演の芸術祭参加作品「坂部ぎんさんを探して下さい」だった。しかし、6歳上の山田さんとは接点がなかった。その理由を考えると、演出家と脚本家という立場を超えて、極めて作家性が強い2人の作

風やドラマ観の違いに行き着くだろう。

鶴橋さんは、自分の個性を存分に発揮できる単発ドラマ志向が強く、独特の映像美学を發揮した。いつしか「映像の魔術師」と呼ばれたように、女優を美しく撮るのに長け、華麗な映像空間を構築した。内容面では男女の愛情劇、現代人の心をむしばむ病巣や狂気、事件などの非日常的な題材が多かった。テレビドラマという舞台でも、映画を撮る感覚に近かったのではないかな。

一方、山田さんは殺人などの犯罪を自ら禁止手とした。「犯罪ものは時代や社会の歪みを描きやすい。でも、多くの人は犯罪に走る手前で踏みとどまっている。ドラマチックじゃないけれど、僕は大多数の人の現実を書く」と思ったんですね」と、どこにでもいそうな普通の人や家族を社会とのかかわりで描き、時代相や社会風潮を鋭く切り取ってきた。松竹の出身ながら、テレビドラマの特性や役割に自覚的だったと言える。

山田さんがNHKでよく組んだ深町幸男さんは、早坂暁脚本の『夢千代日記』『花へんろ』シリーズも手がけたように、人間の心の機微に分け入り、情感を込めて描くのが得意な演出家だった。山田さんの信頼は厚く、NHKを退職した後もコンビを組み続けた。

筆まめで、手書きの便り

鶴橋さんと山田さんの共通点は作品に関してもではない。2人とも実に筆まめで、多くの人に手紙やはがきを送ってきた。いずれも最後まで手書きで、ワープロやパソコンの字ではなかった。

鶴橋さんは新作が完成すると、必ずと言っていいほどの報告のコピーに、個人へのメッセージも書き添えていた。筆記用具はたいへい筆ペンで、ひと目でわかる独特の筆跡だ

った。年賀状と同様、手紙やはがきにもラフなタッチの水彩画が添えられていた。多くの人たちに対してこのように便りを書き続ける気配りも、「鶴橋組」と称する俳優やスタッフを増やすことにつながったのだろう。

山田さんからも多くの便りをいただいた。ドラマ評や山田さんに関する評論を書いたら丁寧な礼状が届いた。私が新著を贈ると、全体に目を通さなければ書けないような、的確な感想をつづった手紙が届き、「山田さんの貴重な時間を奪ってしまった」と恐縮した覚えもある。毎年の年賀状でも、必ず直筆のメッセージをいただいた。

山田さんが死去した後、テレビマンユニオンの合津直枝プロデューサーと電話で山田さんの話をしていたら、彼女も、ドキュメンタリーの取材で面識を得た山田さんと多くの便りやり取りしたという。是枝裕和監督の映画デビュー作『幻の光』をプロデュースした後、江國香織原作、原田知世主演の映画『落下する夕方』で自ら脚本・監督を務めた。それが1998年に公開された際、山田さんから好意的な感想をつづった便せん7枚が届いたそうで、「私の宝物なのよ」と言った。

山田さんの筆跡もかなり個性的だった。筆圧が強く、原稿用紙のます目だったらみ出しそうな、伸び伸びとした字である。鶴橋さんの字にしても、何物にもとられない奔放な印象があり、自由な精神は2人に通じるのかもしれない。

ユーモアのセンスと夫婦別姓

ユーモアのセンスも、2人の共通点として挙げられる。

鶴橋さんは自分をダシにしておどけ、その場にいる人のことも面白おかしく語って、周囲の人を爆笑させた。酒席では、話の流れをさ

りげなく仕切り、しらけている人がいないか、絶えず全体に目配りを利かせた。サービスピ精神は旺盛で、気遣いは細やかだった。

山田さんは会話に、微笑を誘うユーモアをまぶした。印象深いのは2014年秋、日本記者クラブが主催した戦後70年「語る・問う」シリーズの講演会のことである。山田さんがテレビドラマや家族をとおして戦後の社会の変化を指摘した後、質疑応答に移った。会場からは、政治への関心など幅広い質問が飛び出した。松竹時代に仕えた木下恵介監督への評価を尋ねる意地悪な質問に対しては、「悪いところまでいいと言いくるめるような義理はないです。ただ、言わないくらい義理はあるんじゃないかな」とこやかに答え、参加者たちを笑わせた。やんわりと、それでいて見事なかわり方だった。

右より・筆者、鶴橋康夫、今野勉

合津直枝（テレビマンユニオン）



2016年2月、神田神保町にて最後にもう一つ共通点を挙げれば、2人と

も結婚に際して、相手の姓に変えたことである。新潟県村上市出身の鶴橋さんは長男で、私が高橋で酒を飲んだこともある弟の鶴橋健司さんは新潟日報の編集委員だった。鶴橋康夫さんが「倉田」となる理由は、本人について聞きそびれた。

山田さんの「太一」は本名だが、8人きょうだいの六男なのに「二」がついたのはなぜだろう。早稲田大学教育学部同級生で、NET（現・テレビ朝日）のアナウンサーになった石坂和子さんと婚約すると、先方の親族会議に呼ばれた。「二人娘を嫁に出すと、家が絶える。名前を変えてほしい」と切り出され、「そんなの、いいですよ」と即答した。

「一同、あつげにとられたのかもしれないですね。山田家のお墓を守る身内はいました。戸籍名を変えるだけだし、仕事では旧姓を通すつもりでした。父に話したら不機嫌になり、世に出たら『山田』で頑張れ、とだけ言いました。」山田さんはこう振り返った。

鶴橋さんも、会社と仕事の両方とも旧姓で通した。2人は凶らずも、世の中の潮流に先がけて「夫婦別姓」を実践した。

陽気な人柄で、鶴橋組をはじめ多くの人に親しまれた鶴橋さんと、柔和で、いつもほほ笑みを絶やさず、周囲から敬愛された山田さん。作風もタイプも異なるが、2人が並走した時代のテレビドラマ界はこれだけ作品の幅があり、豊かだったと思えてならない。

* * * * *

鶴橋康夫さんを偲ぶ

放送人句会幹事 深尾一化（隆二）

本会会員で演出家の鶴橋康夫さんが、昨年十月十七日に逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。放送人句会はこの三年間に堀川とんこうさん、伊藤健郎（雅造）さんに続

いて大きな存在を失いました。本当に惜し
れます。残念でなりません。

失礼ながら私は鶴橋さんの作品をほとんど
拝見していませんが、放送人句会で初めてお
目にかつてからご一緒した七年間は、彼の
人間的な魅力を直接感じられる貴重な時間
でした。

鶴橋さんは放送人句会に二〇〇七年九月の
第四回から参加され、一昨年十二月の第87回
までに二百二十二句を残されました。

彼の俳句には演出家としての経験と個性が
満載されています。客観性や無心をもって尊
し、とする現代俳句の本流「花鳥諷詠」対して、
色彩感・大胆な表現の一方で細やかな情感・優
しさ・女性に対する憧憬なども溢れています。
長く講師を務めた俳人の星野高士師も、その
点を非常に高く評価し、師の主催するNHK
の俳句番組にゲストとして招かれたこともあ
りました。

ドラマや映画は、観る人々を一時現実世界
から解放し、架空の世界に遊ばせることを
本旨としています。その意味で、鶴橋氏の俳句
は、放送人句会のあるべき姿を示してくれて
いたとも言えるのではないのでしょうか。

鶴橋さんを評して「人たらし」という人がい
ました。もちろん「人を騙す」という意味では
ないでしょう。一目で他人の心を惹きつけて
しまう人柄を逆説的に表現した言葉に違いあ
りません。その人柄が俳句の中には余すこと
ろなく滲み出ているとも思うのです。

全句の中から私の好きな句を中心に紹介
します。

二〇〇七年

月明りボンボン時計の鳴り出しぬ
湯豆腐の似合う女や足袋を脱ぐ
うつ伏せも仰向けもあり枯落葉

二〇〇八年

雛飾る生家瘦せたり母もなく
離れ住む子はなきに似て雛飾る

二〇〇九年

病みしより青葉若葉を厭う母
短夜は妻の口下手慈しむ
視聴率汗一滴の重みかな
ほどほどの老いの歩みや着ぶくれで

二〇一〇年

身ひとつの孤独飛び出す初稽
夏の入りそろりと抜き腕枕
少女らの脛艶やかに夏来る
細帯のあるかなしかの夏の夕

二〇一一年

また一つ嘘見えてきて水温む
又ひとり友垣くずれ水温む
小康の妻のおしやべり水温む
薔薇の棲む家に二人の余生あり
羅の女奈落を連れてくる

二〇一二年

羅の女ゴキブリ殺めしか
月浴びて軽き殺気やカメラマン
蟻螂のいま恍惚と喰われおり

二〇一三年

一瞬の愛撫さらめく宝舟
椿落つ言葉途切れてふたりだけ
妻病むは空が病むこと晩夏光

二〇一四年

なんかくら沢尻エリカ冬牡丹
木の芽晴れ病の妻も艶めきて
言いそびれ辞すればなびく虞美人草
笑ふかに泣くかに金魚母逝く日
大寺にぬつと出できし盆の月
帰ると言い帰るなと言つ小春かな

二〇一五年

また一歩時の旅人小豆粥
鳥帰る出自育ちの序列かな
母の日や自画像の皺延ばしけり

愛一つさつと消えゆく野分かな

二〇一五年

寒の水足を知らざる己が影
上向かぬ防犯カメラ鳥帰る
薫風に開きし乳房に汗青し
母の日やあの娘と寝たのね別れなさい

二〇一六年

この家もやがて空き家か空に風
火遊びの千秋楽に枯野かな
わが妻の縄文顔や鮫鱈鍋
ねんねこにあのねあのねの声がした

二〇一七年

春時雨小さくなりし妻といて
猫の恋農婦ひたすら俯きて
へソ曲げし妻に割られしやばん玉
息白し京都太秦孤独です

二〇一八年

さようならに慣れ死にも慣れ残り雪
野に寝かす母少女めく初螢
夏瘦せし夜毎わたしを抱くテレビ
夏座敷テレビの分際下着脱ぐ

二〇一九年

菜種梅雨無性に恋し妻の笑み
負ぶわれた背で泣く義母に秋初め
七夕や駅駆けあがる藍浴衣
ケツカッチンあの世の人とかくれんぼ

二〇二〇年

まじろんで堕ちて逝きたし立つ春に
菊日和アルツの妻の澄んだ声
あきのかげ哀しみの端持たされる

二〇二一年

大根というな単なるミスキャスト
去る人はみなしずかなり初霜も
寒桜青空に凍て死は間

二〇二二年

睨む眼でマスクの女夏の風邪
十六夜やすりと帯を解きにけり
真つすぐに届かぬ言葉そぞろ寒
二〇二二年十二月最後の句会にて
我が心非売品です埋もれ火に
さよならの声まだ残る埋み火に

一昨年五月、「堀川とんこうさんを偲ぶ会

での彼の言葉は、とても心のこもった素晴ら
しいものでした。一部をご紹介して、私も鶴橋
康夫さんにお別れさせていただきます。(台臺)

「ねえーとんこうさん！ そっちはどうです

か？ 大山さんもういらっしゃる？ (中略)あっち
には歓迎会であるんですか？ (中略)

さよならはちよこ死ぬじとシヤボン玉

康夫

小河原とんからの宿題

小河原とんさんを悼んで

渡辺 紘史

一九四〇年、山梨県甲府市生まれ。広く秀で
た額に秀麗な眉目、郷土の英雄武田信玄を思
わす顔貌と厚い胸板に隆々たる筋骨を備えた
体軀。70歳を過ぎて250ヤードを飛ばすゴル
フで、私たちがゴルフ仲間を呆れかえらせてい



た、あの「オガハラチャン」が逝ってしまうなど、誰が想像しただろう。

一九六四年、東京オリンピックの年にNHKに入局した小河原さんは、主に教育・教養ドキュメンタリー番組を担当した。85年以降は「日曜美術館」やNHK特集「ルーブル美術館」など美術番組を中心に制作したが、小河原さんの良い仕事は、東京の番組制作局時代以外にこそあった。全国組織NHKでは転勤転籍が普通にある。小河原さんも広島放送局に転勤し、80年にNHK特集「爆心地のジャーナリスト」を制作した。

4年後輩である私は、82年に同じ広島に転勤したのだが、小河原さんはNHK特集「君はヒロシマを見たか」のデスクとして、当時の広島局「原爆報道番組」のリーダーとして活躍していた。前の仕事の都合で8月6日に広島に赴任した私は、当日の生放送「君はヒロシマを見たか」の現場中継スタッフの一人として小河原チームに参加した。

「ヒロシマ」について何一つ知らずにドラマ部から転勤した私にとって、その番組がヒロシマを学ぶ最初の教材となったのである。ちなみに、この「君はヒロシマを見たか」は、広島原爆資料館を徹底的に取材し、所蔵の資料を広く世に紹介したのだが、この番組は、同時に市民たちに、密かに残された原爆資料を提供するよう呼びかけるキャンペーンを行っており、結果として、多くの遺品や資料が世に出るきっかけとなった。この中の一つに40年ぶりに掘り出された「被爆三輪車」があり、これにヒントを得て、私は一九八六年、ドラマ「ふたたびの街」を企画し演出した。考えてみれば、私の企画のネタは小河原さんから頂いたともいえるかもしれない。

小河原さんは、翌年東京の番組制作局に戻

ることとなり、私達は、ほぼすれ違いの状態で直接一緒に仕事をするとはなかったが、同じようなことが、その20年後に起きたことは不思議な因縁であった。

03年、私はNHKを退職しNHK出版に転籍することになった。当時出版の図書部長として「冬のソナタ」の発行に尽力していた小河原さんは、出版界に疎かった私のもとに出版業に関する様々な書籍を送ってくれたばかりか、NHK出版の社内人物情報なども、メモに整理して渡してくれたりもした。小河原さんは、間もなく退職し、後を追うように入社した出版での私の仕事は、広島での仕事同様、またすれ違いになってしまったが、NHKOBの仲間で作ったゴルフ愛好会「がんばるマン会」の世話人を私がやっていた関係で、ゴルフを通じての交友は以来長く続き、私が入会したこの放送人の会における交友も、彼の死まで続くこととなった。

放送人の会では、理事にはなっていたがなかったが、総会や忘年会にはよく顔を見せ、13年、放送番組センターとの共催事業「人気番組メモリー」で「日曜美術館」を取り上げた際には、かつてのスタッフたちのまとめ役として、資料集めからその構成までも担当し、自らも出演するなど、世話好きでまめな先輩ぶりを見せてくれた。

改めて、小河原さんの経歴を振り返って思うのは、NHKという組織に入って仕事をすることを運び取った人間の中で、小河原さん程、理想的な仕事人生を送った人はいないのではないかと、いうことである。与えられた場所で、場をささぐり最大限の仕事をする。その仕事は確実に次の仕事の場に生かされ、新しい活躍の分野を広げ、しかも終わることな

く継続する。広島放送局やNHK出版で、小河原さんの後を同じように辿った後輩の私なぞには比べようもない旺盛な仕事ぶりである。

出版の図書部長時代、小河原さんは、広島での取材・制作体験に加え、膨大な資料を駆使して『ヒロシマはどう記録されたか』を執筆した。(03年 NHK出版) メディアは、ヒロシマの実相を、何時、誰が、どのように伝えてきたのかを記録したもので、14年文庫化(上・下巻) 朝日文庫)され、今でもヒロシマ非核番組のガイドブックとして読まれ続けている。

もう一つ驚くのは、NHK出版を退職した後の仕事ぶりである。フリープロデューサーとして、いくつかの大学で教える一方、NHKでミニ番組シリーズ「めくり万葉集」を制作し、その後は「万葉集」を自称し、古代詩歌を題材にした音楽朗読劇の脚本を書き、全国公演を行った。教育教養ドキュメンタリー制作から、本の著作、教育、古詩歌、音楽、舞台と、人生最後の仕事の幅をこれほど広げ得た小河原さんの熱量の大きさを改めて感じる。

40年間、すれ違いばかりの小河原さんとの仲であったが、一緒に仕事ができたかもしれない機会が2、3度あった。19年の春頃だったろうか、小河原さんから連絡があり、「相談がある」ということでお会いした。「NHKの原爆報道番組の応援団を作りたい」というのだ。ヒロシマを記録してきたNHKのOBを糾合し、NHKの番組制作を応援しようというのである。小河原さんと私の二人が発起人となり、会の名前を「非核ヒロシマ」から「ヒロシマ」をとって、「ヒロシマの会」とし、19年8月6日の

夜、渋谷のレストランで第1回の会合を開いた。相田洋さんや安間総介さんなど大先輩や現役のプロデューサーも駆けつけ、会自体は盛り上がったが、結局はコロナ禍もあって、具体的活動もできず、立ち消えとなってしまった。小河原さんの、後輩渡辺に対する過大な評価、端的に言えば、買いかぶりすぎが理由でもあった。私には荷が勝ちすぎであった。もう一つ、小河原さんからの仕事の提案があったのは、昨年のことである。長崎原爆投下の日(8月9日、前にも書いた)きみはヒロシマを見たか」の中で紹介された被爆ピアノが修復され、リサイタルが開かれたのを機に、当時広島放送局と一緒に働いた仲間たちが集まった時のことである。私が故・団伊玖磨氏の作曲した「交響詩ヒロシマ」の初演コンサートを演出したことを聞いた小河原さんが、数日後企画書を書いて送ってきた。内容は、その夜盛り上がった話し合った内容がもとになつていたのだが、大仰なタイトル「ヒロシマ音楽祭」という企画であった。そこには、制作・小河原正己、演出渡辺紘史とあった。その後、メールなどで2、3度やり取りをしたのだが、これも私の踏ん切りが悪さと、自信のなさでそのままになってしまった。結局、昨年8月9日が小河原さんとお会いした最後の日となった。

結局、私は小河原さんと、四つに組んで仕事をすることはできなかった。小河原さんから与えられた宿題はあまりにも重く、送られたメールもどれだけ大きいものだったか、年が明けて改めて噛みしめている。

訃報

小河原 正己(おがはら まさひ)

23年9月28日に逝去、享年83

64年NHK入局。教育、教養、ドキュメンタリー番組の制作。80年「核戦争後の地球」、84年「日曜美術館」、N特「ルーブル美術館」、「ぐるっと海道3万キロ」、88年N

特「海のシルクロード」。91年番組制作局長、97年NHK出版に転籍。03年フリープロデューサー。13・14年音楽朗読劇「万葉ファンタジスタ 大伴家持」脚本、19年3月音楽朗読劇「いや重げよこころ愛のもののお大伴家持」作・脚本。

☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆
鶴橋 康夫

23年10月9日に逝去、享年83
64年讀賣テレビ入社、東京支社制作部に所属し、ドラマ演出を手がける。03年読売テレビを退社し、東北新社へ移籍。「木曜ゴールデンドラマ」枠で多数の社会派作品を手がけた。数々の賞に輝き、賞男と言われた。浅丘ルリ子と組んで「かげろうの死」など多くの作品を発表し、81年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。「刑事たちの夏」で99年度ギャラクシー大賞受賞。

04年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。
07年紫綬褒章受賞、13年旭日小綬章受賞。

映画監督として07年公開の「愛の流刑地」でデビューし、16年「後妻業の女」、18年「のみとり侍」など、男女の情愛を描き続けた。



放送人グランプリ2024の

投票締め切りは、

3月15日(金)です。

放送人グランプリ下馬評座談会

恒例の下馬評座談会をお届けします。いつものように、文頭のA、B、C、Dとあるのは、段落記号のようなもので、特定の発言者を示すものではありません。
グランプリのノミネートの参考にしてください。投票締め切りは、3月15日(金)です。

司会 それでは、恒例により、短く下半期の感想・感慨など。

A 猛暑疲れが尾を引いた秋口、今野勉さんの「テレビマン伊丹十三の冒険 ―テレビは映画より面白い?」を読んだ。「遠くへ行きたい」の伊丹さんと今野ディレクター、時々カメラマンや音声さんが登場して、ロケの途中で大人たちが平気で踏み迷っている…そうだ、テレビは若かった!

B 12月本放送となったNHK4K。フィラーに毛が生えたような番組とは言えない編成。番組らしい番組はBS・地上波の再放送ばかり。おかげでドノマ人間模様(2024年) (85年)をBS4Kで見せられることになる。

C 1月1日の能登半島地震が衝撃的だった。賛否両論ありますが、NHKの女性アナのアナウンスは見事だった。咽を傷めんばかりの絶叫、これぐらいできないと、やっぱり人の命は救えないんだなと実感した。正月だったので番組を止める止めないの判断も難しかったよ。

D 地震の初動でアナウンサーが絶叫したのは、二〇二一年の反省からです。東日本大震災のとき、僕は制作現場のトップの方にいたので、冷静な避難呼びかけが人々を動かさなかったという、忸怩たる思いをアナウンサーたちと共有した。

大震災から3か月後の「震災報道を語る」会

これは僕らがNHKに「BS3を残して欲しい」と提言したときに、緊急時の放送対応には「斉同報」が、いかに意味があるのかを議論していたんですね。これをすっかり忘れていて、今回の放送で思い出したんです。

「一番明確になったのは「停波を止めろ!」です。ラジオ第2は日本に住む外国人のためのメディア、いざとなったときにすぐ回せは聞ける、というメディアとして進化するのは、そしてBS3は今、石川県の情報をメインに出しているのを普遍化して、各地域のローカル局がメインになって編成した番組が全国放送で一斉に流れる・新しいチャンネルができる。つまり、私たちは、既存のメディアを捨て去ってゴミ箱に入れるのではなく、それを再発明する力が問われている。そこには「新たな公共の役割」があると考えて、自分の範囲で暴れてみようと思っている。



D ラジオ第1を葬り去るな! BS3を手放すな! 新たな公共性のために。
A ドラマを頑張っただけで、なかなか頭に残

らないのが多く、ちょっと悲しい。恋愛ものが
すく増えている。伝え方が違ってきている
のか、フリーリングというか、ズシンと重いの
は少しぶん減ってきたようだ。

B ドラマはほとんど見ないが、唯一録画して
見たのがNHKの連続テレビ小説『**らんまん**』。
久しぶりに毎回楽しみで、その勢いで『**ギウ
ギ**』も見ている。最近の朝ドラはいい感じにな
っている。毎年、酷評されている『NHK紅白
歌合戦』、おじさんの私としてはとても演出が
凝っていて、あらゆるところに工夫があつて
面白かつた。

C この1年で一番面白かつたのは、ハリウツ
ドの脚本家組合がAI導入に反対してストラ
イキを行ったこと。これからのドラマ作りが
どうなるのか、AIがどう絡んでくるのか、興
味深い問題だ。

ドラマ作りは人間臭さとか肌感覚とか、A
Iにはないもので作ってきたが、AIに「今ま
でのドラマ」を分析させて似たようなものを
作ったり、「現実のドラマ」との組み合わせで
新しいドラマを作ったり・・・AIの利用は
我々がちゃんと見ていかないといけない問題
だと思つた。

D 年末の30日の土曜日朝10時、**IBS**の報道
6日2023〜対する世界〜戦争×格差×マ
ネー。司会が関口宏さんメインで、多少甘
いというか薄いとこもあつたが、7時間半
の枠で、今ある社会問題を掘り下げたのはや
はり見応えがあつた。

A NHKの報道は、働き方改革をし過ぎたの
かしら？

B 辰年は荒れるというが、正月に2つの大事
件が起こって、内外ともに波乱の年の予感

C 下半期 山田太一さん、伊集院静さん、八

代亜紀さんなどの時代を代表する文化人や歌
手が亡くなった。文化を支えてきた彼らは語
るべきさまざまな物語を知っている・・・。彼ら
への追悼とともに、どう残していくか、課題を
渡されたのだと思つている。

D 一番ショックだったのは10月に演出家の
鶴橋康夫さんが亡くなって、翌月29日に山田
太一さんが89歳で亡くなったこと。さらにシ
ョックだったのが、民放が地上波では山田さ
んの追悼番組を放送しなかつたこと。

言うまでもなく、文学でも映画でも芝居で
も音楽でも、その世界で相当良い仕事をした
人が亡くなつたら、然るべく追悼するのは当
たり前のことです。

伊集院静さんが亡くなると、エンタメ系の
文芸誌は追悼特集をしています。文学の世界
ではリスパクトの表現として追悼の思いを特
集号の形にします。

テレビドラマの世界はどうだったかとい
うと、NHKが**トランスミナル朝の秋**や**土
曜ドラマチロルの挽歌**を再放送し、「クロ
ズアップ現代土」(※)とラーカイブス番組で
追悼しました。

※「クロズアップ現代土」で12月8日
「山田太一 生きる哀しみと喜びのこころ」で、
山田太一が最晩年、自作について語つた
音声記録を紹介し、社会のバリアフリー
化への道を拓いた記念碑的作品『**男たち
の旅路 車輪の二歩**』に込めた思いを語る。
山田作品の出演者、水谷豊、中井貴一、柳
沢慎吾らのインタビューを交えて、山田
作品の真髓に迫る。(番宣文書より、アレ
ンジ)

「クロ現」では、是枝裕和監督が「影響された」
と語つていた。

民放はどうか。私を知る限り地上波では一
切やつてない。CSの「TBSチャンネル」が

トーク番組**テレビがくれた夢 山田太一**を
再放送した。これだけだったとはショックで
す。

A 山田太一には、各局、みな等しく世話にな
つている。山田は30歳のときから脚本家とし
て独立し、50年以上シナリオを書かれていて、
倉本聰、向田邦子らと並び称されてきた。

「月刊ドラマ」(2月号)で、39人の脚本家
が、自分にとつての山田太一のベストワンを
答えている。人気脚本家の岡田恵和は**想い出
づくし**がトップで、あらゆるドラマの中でも
トップだと言つ。井上由美子はじめ、みんなが
如何に山田太一に影響を受けたかが分かる。

だが、まともに追悼しないテレビのこの有
様はなんなんだ、憤りを通り超して悲しい。
B テレビ70年うちの50年を、山田はテレビ
ドラマだけじゃなく、テレビそのものの価値
を高めるような仕事をした。笠智衆の晩年の
三部作(NHK)は映画がやらなかつた世界を
山田太一が描いて、俳優・笠智衆の仕事として
残る作品となつた。

倉本、向田も含めて、その上に立っているん
な脚本家が注目を浴びる仕事をするのだから、
山田太一は過去のものじゃない、今も視聴者
の中に生きています。ことに50歳前後の世代は
「ぶどうの林檎たち」に影響を受けた。いろ
んな世代の人の中に、山田太一ドラマは生き
ている。

C にもかわらず、一番肝心のテレビは何を
しているのか、特に民放は何だろう。ビジネス
という名の金もうけをしたいなら、公共性な
どと言ふな、放送は文化などと言ふな。民放の
経営者に放送文化を語る資格はあるのだろうか。

D 「放送人の証言」の中の『ドラマ大先輩の
証言』を、若い人の研修に役立ててみては？
とTBSに売り込みの相談に行つたら、山田

太一さんといつても知る人はいない、堀川と
んこうといつても若い人は誰も知らないとい
ふつら断られた。今に至る文化を作つた先
人たちへのリスパクトも関心もない。

A 昔の民放キー局は文化庁芸術祭(芸祭)の
ために、『芸祭だからできる』ドラマを作つ
た。それが、各局、芸祭だからできる。ドラマ
を作らなくなり、参加もしない、参加しても連
続ドラマでお茶をにごした。

B NHKが配信を同時にすると計画した時
に、民放連が民業圧迫だと大反対した。だが、
公共財の電波を預かつている民放が、それな
りの番組を視聴者に提供しているかという
全くそうではない、情けない状態なのです。

C その気になれば、民放はいくらでも再放送
はできるんです。キー局の中でTBSはダン
トツに、山田さんに足を向けて寝られない放
送局です。ぼくが、山田作品のナンバーワンだ
と思つている**「崖辺のアルパム」**をぜひ、再放送
してほしい。

D 経営者の問題ですよね、ジャーニーズに関し
ても事務所とテレビ局は同罪です。検証番組
で「噂では聞いていたけど、実は本当だったの
か・・・」と現役の人たちは言つてたけど、退職
した僕たちに聞けば、その実態を語つたのに、
なぜか聞きに来なかつた。

2か月に1回、プライベートでバラエティ
ーや制作畑出身の人たちが集まる会があるん
だけれど、ジャーニーの性加害(少年夢)のこ
とは、みんな知つてましたよ。

A ジャーニーズの問題は日が経つのを待つて
いる状態だね。旧統一教会の問題と同じで・・・
B メディアは忘れっぽくなつてきている。去年、
ジャーニーズの問題があつた、暮れに自民党の

お金の問題があつた、だが、正月の1日2日の
地震と事故の生中継一色になつてしまい、や
つておくべき問題を忘れたように、年明け

からやるべき問題が発展しない。
C メディアの忘れっぽさを、忘れないでしか
と見ておこう。



地方からの希望

D 今日では地方から「希望のようなもの」を語りた。昨年、放送人グランプリで受賞した北海道文化放送の新根室プロレスは映画化(※1)されて、1月より上映中です。これは、名古屋から始まった流れですが、地方のTVドキュメンタリーは今や映画化が常識になっている。その理由は、テレビ局にはドキュメンタリーの制作費は残念ながらもう殆どないから、何とか合同で集めて制作費を作るんだ、という発想。

制作者たちは自分たちの存在を存在としてどう伝えていくかを、みんな考え始めている...と僕は思っています。それは応援したい、お金は出せないの、心の応援をしています。
1月20日から上映が始まった、テレビ朝日系のHTB(北海道テレビ放送)制作の映画(※2)があります。札幌近郊の長沼町にタンチョウを戻そうと奮闘する農民たちを、15年から7年間に渡って取材して、その折々に放送されたものを映画にしたものです。
それから、今年のイベント、仕事として動き

出そうと思っている映画「ヤジと民主主義」(※3) HBC制作は22年から始まって、ロングランを続けています。

※1映画新根室プロレス物語〜無理しないケガしない 明日も仕事〜、監督・湊寛、P:吉岡史幸、取材・編集:堀威。

※2映画奇跡の子 夢野に舞う〜人の知恵と都合で愛と正義が解け合〜、希望が生まれた、監督:沼田博光、統括P:坂本英樹、P:四宮康雅、堀江克則。

※3映画ヤジと民主主義〜2017年7月15日それが全キの始まり〜、制作:編集:監督:山崎裕待、取材:長沢祐、P:山岡永二、磯田雄大、鈴木和彦。

D 静岡とか北陸とか、他の地域でも映画化が行われています。ドキュメンタリーはジャーナリズムの根幹だから、絶対に無くさない、そのためには自分たちは、一会社がお金がないとか、お金は出せないとか、枠は出してやるが制作費はないぞ!と行われても「俺たちは俺たち自身でお金を稼ぐ、そしてドキュメンタリーの灯を消さない」と覚悟して、映画化に向かうのです。

その成功例がいくつか現れて(名古屋が始まりで、それを追従していくと、「地方ドキュメンタリーの継承」は、結局、放送法第1条の「健全な民主主義の発達に資する」という文脈で言うと、民放の地方局が頑張らなかつたら、健全な民主主義はどうにもならないわけですから、地方局の報道マンたち、あるいはドキュメンタリストたちが頑張っているのです。映画のほかに動画もある、そのコラボもある。そんな新しい時代の中で、テレビ局を辞めても個人でテレビ局に発信しながら、映画を作っていくというような魂が育みつづける。

それはおそらく若い人たちにも響いていくのではないかなと、今、思っています。

会社それでは個々の番組については、時間も限られていますので、私のメモにそって番組を話し合います。

Nスベの冤罪の深層。続編も含めて(※)の評価となります。調査報道として良く出来ています。

係争中の事件をよくぞ取り上げました。今までだと裁判に係争中のものは、NHKはやらない、やれないということがあったと思うんですが、これは全く関係なくNスベで放送して、地裁の判決前に続編も放送した。地裁の判決で「捏造」とされて、検察は上訴した、会社も上訴した。

A これは評価しているよ。どうしてもメディアは係争中のものとか、捜査中とかのネタは付度して触れないで来た。政治家が「係争中なので差し控えます」と言つと同じでね。だから、国民に必要な情報、或いは欲しがる必要な情報について、きちんと取材した調査報道はとても大切なことだと思う。

※1月の初め、秋田和典さんから「グランプリの候補です、下馬評の参考に」とメモを頂きました。

B 昨年のグランプリ、E TV特集ルポ死亡退院(※)が警察を動かして実際に滝山病院が摘発されたのと、同じような踏み込んだ調査報道はこれからも必要だ。

※:その後の受賞。
11月14日、第23回(23年度)「石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞」で大賞受賞(50万円)。

1月21日、「貧困ジャーナリズム大賞」(一社)反貧困ネットワーク主催で、個人表彰。

青山浩平、持丸彰子、真野修一の三氏が受賞。

C 今の自民党の裏金問題も、検察が会計責任者を起訴して捜査終了になり、自民党の派閥解散でどっか行っちゃう感じなので、やっぱりメディアはそれぞれの立場で、しつこくきちんと報道すべきものに戻していくことが必要だ。そういう意味で見ると、この作品は良くやっている。

D ディレクターの石原大史(ひろし)さんは、サリドマイド事件を追うドキュメンタリーを作って、放送文化基金賞の最優秀賞を受賞した。(※) 芸祭の大賞を受賞した時に、話を聞いたことがあるが制作局の良いディレクターです。

※:第41回放送文化基金テレビドキュメンタリー番組部門の最優秀賞を受賞。E TV特集「薬禍の歳月」サリドマイド事件・50年(15年)では、ディレクターの石原(03年入局)は演出賞も受賞。ほかに、E TV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」シリーズで芸祭大賞など受賞。

A E TV特集の主幹のCP東野さんが、メイはEテレなんだけど、Eテレに籠もらないで、警視庁公安部の「冤罪」のスクープをつかまえてNスベに打って出た。しかも「VIVA N」がさんさん持ち上げた警視庁公安部の捏造が疑われる問題を白日のもとにさらしたのだから評価したい。

B 外事係の第1課第五係による「どっち上げ」の事件は、いわゆる敵基地専制攻撃が必要だと大騒ぎする端緒になったものだが、色々疑問点が出されている中で、あえて検察が公訴提起に踏み切った理由が分からない。

C 新聞も同じで、やはり検察に物言うのは大変なこと。検察がリークと思われる捜査情報

を漏らすと、今の政治と金の問題だつてメディアはわーっと乗っかるじゃないですか。

D 検査で言えば、この12月5日に、4年前の広島地検の若い検察官の自殺が公務災害に認定された。検察にもいろんな面があつて、過労死のような暗部もあるわけで、やっぱりそこをきちつと掬つて正しく報道してほしい。

司会(ここで、昨日の佐藤優のクロ現出演…
佐藤優が語る 2024年の世界と日本…が話の中心になって盛り上がる。

A 佐藤優のインタビュアーはとても参考になった。NHKも民放も、僕ら報道は思い込みという『既成概念』が取材のスタートになる。それは、地方局と社会部記者が上がつてまでやられる『察回り』で、事件事故は警察から発表されたものを貰うのが当たり前との『既成概念』が作られるからだ。昨日、その反省として、僕はクロ現を見ていた。

B 昨日の番組は、知の巨人と言われるほどの本を出しながら、その本さえも取り上げず、ずつと彼を遠巻きに見ていたという現場が、「タブー視していた佐藤優」をあえて出演させたことに意義がある。

結果、常識的な話だつたというの、よくわかる。

C 戦争の構造をちゃんと見せたところが面白かつた。だから今、NHKに「一話話しやういことを話したことは間違いない。冒頭、鈴木宗男が「これはロシア勝ちますよ」つていうのに、みんな突つ込まなかつたじゃないですか、それを佐藤は「戦争の終わり方を見せて、ちゃんと見せなくちゃいけない。ただ、戦争はそれでも良くない」という話をした。言っていることは地味なんだけど、響くんです。

D だからさっきの話に繋がると思つて聞いていたんです。(笑)

※佐藤は考える…ウクライナをめぐる問題でロシアを一方的に「悪魔化」して思考を止めるのではなく、その「内在的論理」を把握することで、外交交渉の確に進められる。

「内在的論理」とは、相手が物事を判断するにあつて何を重要視しているかという「価値観や信念の体系」のこと。停戦によつて、ロシアが占領している地域を認めることにはならないから、とにかく銃を置いて、人が死ぬことをやめる。そのあと、外交交渉で問題を解決していく、この方向性は可能だ」と言う。



老いる住まい

司会 世田谷住まいの私には大問題で、正座して見た番組。我がマンションの3階の窓から竹藪が見える。その竹藪に埋もれて全く見えないのが空き家に近づいている住宅である。風の強い日、あたりに竹の葉っぱをまき散らしている。散歩で歩けば、幾つか廃屋風の住宅

がある。まさに他人事ではない。

正座して番組を見ているうちに、ふつふつと湧いた疑問、なぜヒロミや大久保佳代子が出て、司会が桑子真帆なのか、なぜ、こんな柔らかな番組がNスベなのか、と。

A 時間の無駄ですから、誉めたい番組やいい作品を取り上げましょう。

実習生という偽り

B 30分のハートネットTVでフィッサーさんを追つて「技能実習生が見た「ニッポン」」が秀逸だった。恋人との間で妊娠した女性は帰らなきゃいけない、2年半かけて撮影したドキュメントと制度に詳しい先生がスタジオで解説する、丁寧で優しい番組はNHK福岡の制作でした。

C 外国人労働者については、福岡はいろんな番組でね、ドラマも作つてますね、この10年ぐらいつつと。

D 酷い会社だけじゃなく、鹿児島島の養豚場を経営する会社では、非常に手厚い待遇をしている。それはなぜかという、5年先になつたら絶対ベトナム人は来てくれない、ベトナムの方が経済状態が良くなって、そのとき日本に外国人労働者は誰も来ない状況になる、そつうなつた時に、いま手厚くして丁寧な扱つておけば、きつといいことがあるに違いないから、と言う。

A もう何十年前からの問題ですよ。僕が札幌局にいたのが80年頃、上海の留學生が実質上は釧路の鮭などの缶詰工場で働かされて、母国の条件より酷いと雪の釧路を逃げ出した。それから、技能実習生という制度に作り直したのだが、結局、日本に来ればいいことがあると騙して、みんな借金を背負つて日本にきて働くされる…34年前が今の今まで続いている。

B 昼間、そのうごん屋に入つたら、受付からうごん作っている人まで、従業員はもう全部外国人。そういう時代だから、もう外国とか日本だとかと言つてる場合ではなくて、同じ日本の中に住む人間として、日本人と同じ条件で働いて貰わないと、日本は立ち行かないはずなんです。

C 最初の話につながるけど、彼らがちゃんとした生活ができる「言葉のメディア」も必要だから、NHK、民放が彼らに与えられる番組を作つていく必要がある。

ドキュメンタリーとドラマ

D Nスベの「シリーズ「宗教色」」。2回で終わるのか、まだ続のか分らないが、「ドキュメント」「宗教色」を生きたるも、ドラマもよく取材して頑張つていたと思います。「神の子はつばやく」の終わり方が甘いと言つ方もいるとは思いつつ、良く出来ていました。さすがの柴田演出でした。

A 実質のプロデューサーは家富未央ですよ。また40ぐらいの女性、大河の「いでてん」で訓覇主の下でやつていた。彼女が言うには「企画提案がドラマ部では全然相手にされなくて、門前払いを食らつて、Nスベ班に持つて行った」と。今のドラマの執行部は、この企画はいらぬと思つているようです。

B これは、同じテーマでドキュメンタリーとドラマを作るものですよ。ドキュメンタリーでは当事者が発言しているが、深刻だと思いつつ、他人事に見えるんです。ドラマだと視聴者に感情移入させるために、あなたの身の回りでも起こる可能性がりますよと、物語の見せ方を工夫する。社会問題になつていくテーマをドラマで見せていく意味が、今の時代だからこそあると思つんです。

C 完成度は高いです、柴田岳志はよく頑張つ

ている。これは未解決事件シリーズのドキュメンタリーとドラマの構成ですよね。

D 一昨年、「ガラパゴス」を放送したんですが、企画提案は2回駄目で、3回目に通ったんです。1回目2回目の駄目な理由は、非正規の雇用制度はもう昔から言われていることで、今さらドラマにする必要がないという判断だったんです。現実を肯定しているんです。でも、矛盾は解決していないんです。

だから、ドラマにしたら凄いい反響で、SNSでも反響は本当に大きかったです。自分のことに置きかえて見るんです。周りの正社員にも差別をしているのが、たくさんいるよって…。ドラマで見せる意義は大きいのです。

A 新聞などで、人口減で何年後にはこうなるとシミュレーションしているのを、ドラマ化したしたいとの提案を出したら、少子高齢化はたくさんやっているから駄目だとなる。ドラマならやりようがあるんです、たとえば近未来を作るよとか…。報道やドキュメンタリーと違うアクセスの仕方がある、そこはもうちょっと認めてほしい。

B 一部、一部の構成は、結構多いですよ。一昨年のNSP。南海トラフ巨大地震（22年3月）では一部ドラマで、一部は「最悪のシナリオ」にどう備えるか」で監修の先生と出演者が話し合う。

C ドキュメンタリーで描けないから、描きたい部分をドラマで踏み込んで描く、岡崎栄さんが昔からやってましたね。

SNSと批評と退廃、そして自戒

D SNSに影響された批評が多いと思う。今SNSでドラマがどんな評判になっているか、視聴率とは関係なく「私は好き！」「みたいなものを読んで、批評」をしている。批評の退化ではないのか。漫画のコミックも次の展開をど

うするか、SNSを非常に気にしている。漫画はエンタメの極みだから、それは良しとしても、「放送の批評」にとつてSNSの影響は大きい。

A SNSの影響を受けるなら、SNSを見ない批評家にあたればいい。その点、この放送人の会の審査はSNSに影響されつけないと保証する（爆笑）。

B 私はSNS見えますよ。一応、SNSも視野に入れてます。

C 関連で、スポーツ紙が一番多いのだが「こたつ記事」っていうでしょ、文字通り「こたつに入つて記事」を書く。今までは、例えば「光る君へ」が先週の世帯視聴率が12%が15ポイント上がって15%になったとか、ならなかったとか、昔から記事を書いていたんですけど、今は酷いんです。SNSでああだった、こたつたと言つて引用して、それで「本」ハイツで仕上げてしまう。それがまたネットにアップされる。

もう一歩も外に出ないんです、机に座つてもう「本ね「ハイツ」で書きちゃう。「こたつ記事」の最たるものです。

D あともう一つ、これまたスポーツ紙に多いのだが、テレビのいろんなワイドショーとか生番組見てね、あるコメンテーターがこう言つたらそれに反論してちよつと喧嘩になったとか、それをまたモーニングショーでナントカ評論家が…と書く。

昔のスポーツ紙の芸能担当記者にはスキヤンダルを追う「ハンター」みたいなのがいてねそれはそれで芸能界を探つていくと、いろんな闇に突き当たるといふのがあった。

日刊紙以上に部数が減つて人も減つて、取材に行く時間がなくなつて、ほとんど座つて記事を書く。そこまでスポーツ紙が追い詰められているのだから、SNSを見るのはいい

んです。新聞の投書欄のインターネット版だと思えばいいので、一応、目配りはしてもいい。

だが、SNSをそのまま書くとなると、活字メディアのある部分を担っていたスポーツ紙のプライドを捨てることになってしまう。

A テレビラジオ新聞一般紙スポーツ紙週刊誌がトータルでジャーナリズムを形成しているのだが、ジャーナリズムが全体にへたつて来ている。ITの大きな波に洗われている今、退廃を他人事と思わぬよう、自戒したい。



絵を描いていただけ

B これは傑作です。「101歳のこぼれ生活」画事件最後の生き証人。北海道で菱谷良一さんは有名なんですか？

C 僕も、この番組を見て初めて知りました。戦時に治安維持法違反の事件があったというのは薄々知つてました。ただし、詳細はこのドキュメンタリーで初めて知りました。なぜ僕は取り上げなかったんだらうって反省しました。

D 菱谷さんのキャラクターが飄々としていて、老人臭くなくダンディーでとてもいいんです。

A ドキュメンタリー解放区（※は21年4月から、隔週日曜深夜に放送のドキュメンタリー

一番組。TBS系のJNN系の各局も参加。

※：『ドキュメンタリー「解放区」』は「日本で今、何が起きているのか!?!」「私たちの周りで今、何が起きているのか!?!」「切り口、テーマ、手法を問わない、新たなドキュメンタリー番組」。

21年4月から隔週日曜の深夜に放送。25:28〜26:28。60分枠。調査報道から史実人間、動物ドキュメントなど、様々なドキュメンタリーから、日本全国の今に切り込む。全体で言えば、TBS制作が多い。

B 北海道放送からTBSに企画を上げると、長尺の映画作品として、3月開催の「TBSドキュメンタリー映画祭」に参加してくれるなら、「ドキュメンタリー解放区」で放送する60分枠の制作費を出しますということで、映画制作を前提に作つたものです。ただし、上映は「北海道限定上映」で3月30日〜4月11日『札幌・シアターキノ』にて、です。タイトルは「102歳のこぼれ（略）」となる。

C 北海道放送は本当に良く頑張っている。昨年の「ヤジと民主主義」劇場版は、取材：長沢祐、制作：編集・監督：山崎裕待、製作：北海道放送だった。

心残りの番組、幾つか。

D E V 特集 人新世 ある村にて プラスチックが燃える悪臭がありありと迫つてきて、とても食事の時間には見られない衝撃的な映像だった。取材チームは病気になる前に、日本に帰つてこれたのか、と心配になった。ゴミの山の中から使えるものを一生懸命探して金に変えて、ダイオキシン漂う村で生活する。

A 草刈正雄さんが「ファミリーヒストリー」で、父親の面影を追つてアメリカに行つたときのドキュメントを年末に長めに放送した。8月の放送分と併せて候補にあげておきたい。

B もう一つ、E特の「森崎和江 終わりなき夜」。NHK福岡の吉崎健（たけし）ディレクターの作品。福岡の地で問題意識を持ち続けている創作力を高く評価している。石牟礼道子さんのドキュメンタリーなどで芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞していますね。（※）

※：E特「花を奉る 石牟礼道子の世界」12年2月26日放送、89分。『苦海浄土』朗読：上田早苗アナ

C 今週、17日に見たNスベ「あなたの名前を刻みたい」と「阪神淡路大震災 遺族の29年」で市民運動に貢献している、俳優の堀内雅美さんのお元氣な顔を久々に見たので紹介しておきます。遺族たちの要望から生まれた、慰霊碑に震災で亡くなった人（公式に認定されていない）の名前をプレートに刻んで埋める。その運営を担っているのが市民団体の堀内雅美さんでした。最初からの参加ですから、この運動、長続きしていますね。

D NHKBS1、10月15日放送の「わが娘（二）を手放した日 中国 一人の子政策」の

その後。一人の子政策に翻弄された親と娘、それぞれの思いを丁寧に撮っている。中国で一番触れられたくない話を、郭さんはじめ中国人スタッフが丹念に取材している。今、一番難しい時期に中国を撮り続けているテムジンの仕事に注目したい。なお、放送と同時に中国のネットに出したが、24時間後に全くシャットアウトされた。NHKとして中国版を作れないか動いているようだ。

A 個人で言うと、NNNDドキュメント23「いづめがね」部落差別を作っている山口放送の佐々木聰さんは、民放を代表する名だたるドキュメンタリストだ。「山で最期を迎えたいある夫婦の桃源郷」（07年）などのヒューマンドキュメンタリーを撮って、民放の制作者にとつての最高の榮譽とされる日本放送

文化大賞テレビ・グランプリを3度受賞した（※1）。10年前ぐらいから戦争をテーマに「性加害と性被害」、「性接待」を追っている。彼がここ2、3年取り組んでいるのが部落差別の問題。取っ掛かりは牛飼いの話（※2）。牛飼いや食肉処理場の現場を撮らざるを得なくなり、そこから部落差別に向き合つて、水平社の歴史100年につながる。

※1：15年5月「奥底の悲しみ」戦後70年、引揚げ者の記憶」58分枠、17年5月「記憶の澱」78分枠。

※2：22年6月26日放送「ある牛飼いの日々」。牛飼いの14年を記録。55分枠。

B 映画では、関東大震災100年の節目に森達也監督が「福田村事件」を撮って上映している。映画はともかく、テレビでは取り上げにくいテーマなのだが、佐々木ディレクターが果敢に「部落と差別」を取り上げたのを評価したい。彼のことだから、一度始めるとしつこいんです、やめないんです。「ふたりの桃源郷」でも25年ぐらいやっていますから。

C 番組では、西日本新聞の記者がカミングアウトして、その周りがどう受けとめるかを描いている。昔から続く差別と、全国の5千を超える被差別部落の一覧表がインターネット上に晒される、今のSNSでのネット差別の問題も描いている。

D 地方のドキュメンタリストは本当に厳しいところに置かれている。一例をお話します。良いドキュメンタリーを作つて、いろんな形での賞を受賞すると、次に繋がる場所がありました。ところが、賞に出すにも無料で出せると、審査料を払うのがあるんです。芸術祭賞が無くなったので、無料で出せるのは日本民間放送連盟賞と放送文化基金賞があるが、たいはエントリー料があるんです。いまローカル局が経営的に厳しくなつて、そ

うお金も出しにくくなつて、実績あるディレクターとその作品が埋もれてしまう恐れがあります。

A 放送人グランプリは、無料ですよ！（みな爆笑）

B BSテレ東の12月26日に2時間枠で放送した「秘蔵書部100年物語」が良かった。元バドミントン五輪代表の小椋久美子が旅人（レポーター）となつて、非常にしつかりしたドキュメンタリーの仕上がりで感心した。6月一般公開の黒部子奈月キャニオンルートの体験を足がかりに、黒部の歴史と登山の苦労、「生と死の最前線」を描く。24年1月20日の「プラタモリ」も同じルートで黒部旅。

司会 旧ジャニーズ問題の各局の総括が、どのように行われたかを資料編で並べました。

下半期のドラマは寂しいね

C 一番の面白いドラマは、お金を払つて見た、Disney+の「季節のない街」シーズン1、60分程度の全10話。原作：山本周五郎、企画監督脚本：宮藤官九郎。大震災の仮設住宅を舞台にした・最低で最高の人情エンタメ、これは抜群に面白かった。黒澤明が同じ原作で「どですかでん」を撮つた。ディレクターで横浜聡子さんらが入つてる。宮藤官九郎が今まで出会つた役者を全員招集している。何より、毒があるので笑いが深く切ない。

A WOWOWの「ライクサー Season2」、脚本：井上由美子。他に寝める作品もなく…記憶に残りました。

B 同じWOWOWの「ONZU」小津安二郎が描いた物語、期待してみたけれど、そもそも無理して現代化する意味が分からなかった。

C NHKの15分夜の連ドラ「ミツウツさんに なります」は結構面白かった。松山球美さんが読売新聞のコラムで激賞しています。「この

ドラマがいいなと思うのは、映画オタクと思われていたミワさんが、ご主人に映画の知識をもらつて知識が増えたことで、自信を持つて変わつて勇氣を持つて一歩を踏み出す。そして世界はこんなにも広がつていく…。と。アクティブに世界を見ていくことを教えてくれるドラマです。毎日、楽しみに見られるドラマが少ないだけに、良いですよ。

D これ、ラストの終わり方に賛否がありましたね。



ラジオは元氣です！

A 私から。TBSラジオのお昼をやっているラジオパーソナリティの「ジェーンズ」が、今やNHKによく出るんです。お気に入りなんです。（参照：添付の一覧表）堀井美香アナとのポッドキャスト「スポティファイ」（配信番組）はリスナー総数18万人。いま幅広い年齢層の女性から圧倒的な共感を集めている。

渋谷パルコで、ジェーン・スーと堀井美香が「Over the Sun」の「展覧会」と称して放送したものを舞台でやっている。

B 同じく女性と言うと、杉原愛（シジオ沖繩）の企画・制作・ナレーションの「Basketball Island OKINAWA 沖縄バスケット100年の歴史」を5月に放送した。23年度民放連盟賞の最優秀賞（50万円）を受賞した。なお、彼女は広島県福山市出身。

C 能登半島地震の前日の夜、ニッポン放送で地震の特別番組があった。「関東大震災から100年〜112歳の証言と未来への提言」。関東大震災を体験した高嶋フジさんの貴重な証言と専門家の対策を通して、私たちが大規模災害にどう向き合うかを考える。5月28日（日）に放送したものを一部再編集した。

D TBSラジオの年末特番、金子鈴幸の脚本・演出・主演の「ラジオドラマ 金子鈴幸のサバル・メントモリ」が面白く作っていた。制作の橋本Pは宇多丸、ジェーン・スーを発掘した。金子鈴幸（すずゆき）は劇団を主宰していて、注目の人である。

A ラジオドキュメンタリーでは、地方局の秀作が目立った。北日本放送の「**NOB報道スペシャル**『統一教会と富山政界との関係を追った番組』」

旧統一教会と富山政界との関係を追った番組。23年度日本民間放送連盟賞（11月7日）で、「ラジオ 準グランプリ」と「ラジオ報道部門 最優秀賞」。

B エンターテインメントの音楽番組も充実していた。坂本龍一（71）を偲び、5月4日朝9時から約9時間弱で放送した。「J-WAVE GOLDEN WEEK SPECIAL A TRIBUTE TO RYUICHI SAKAMOTO」。レギュラー番組20年分のアーカイブを使い、ゆかりの人々のメッセージなどで構成。音符で表現できない地平に到達した音楽家の境地を伝える番組

ヒューマンドキュメントだった。

C 今なぜ日本のシテイポップが海外で受け入れられるのか、プームの背景に迫る意欲作があった。9月21日放送の「**OKAY FM 特別番組 海を越えたシティポップ**」

D 年末年始特番に秀作が多かったが、特筆すべきは年末年始の4日間放送した、文化放送の「日本沈没」だった。「文化放送 年末スペシャル 『日本沈没』を探す旅」12月26日〜28日。「文化放送新春スペシャル 『日本沈没』を探す旅 特別編 初語り」24年1月3日。小松左京「日本沈没」の発表から50年。発表の年に文化放送はラジオドラマ「**こゝ過ぎて悲しみの都へー日本沈没よりー**」を放送、脚本は横光晃

出演は中尾彬、日色とも多、他、第28回昭和48年度の芸術祭優秀賞を受賞。なぜ小松左京は「日本沈没」を生み出したのか？ 未来についてどのように考えていたのか？ 専門家たちの証言をもとに構成。また、正月には73年の作品をほぼ完全形で再放送して、司会の伊東四朗のもと、主役の中尾彬と日色とも多が小松左京ドラマをふりかえる。

A 亡くなった二代目市川猿翁の追悼番組があった。文化放送の「**市川猿翁 追憶特別番組 駆け抜けた83年〜夢は終わらない**」12月26日。三代目市川猿之助時代の「スーパー歌舞伎」は革新的な舞台で日本中を仰天させた。ゆかりの方々へのインタビューや貴重な歌舞伎の舞台音源、本人の声などを紹介。

ゆかりの出演者とともに「歌舞伎の未来」についても探っていく。

B 朝ドラ「らんまん」の作曲家・阿部海太郎が長年追い続けている、ハンセン病患者たちの「青い鳥楽団」と、楽団の音楽への思いを語る。

NHKのR2で短縮版、R1で長尺版を放送。「**視覚障害者テレビラジオ "青い鳥楽団"を追**

て」12月24日30分。『この音楽あるハ

ンセン病の音楽家を追って』12月26日45分。出演：阿部海太郎（作曲家）、穴澤雄介（ヴァイオリスト）、全盲、木ノ下裕一（劇団「木ノ下歌舞伎」主宰、聞き手：瀬田宙人アナ。

70年前にハンセン病療養所の元患者が結成したハーモニカ楽団に圧倒された阿部さんは、楽団リーダーで作詞作曲も行った全盲の近藤宏一（09年没）の埋もれていた楽曲を発見する。「分断」が更に色濃くなった（〇二三年、「青い鳥楽団」の音楽に込めたものを探っていく。

C 「ラジオと戦争」の著者・大森淳郎をラジオチームとしてグランプリに推薦したい。

膨大な資料渉猟と長期にわたる取材による渾身のノンフィクションは、23年6月下旬発売で各紙絶賛・話題沸騰となり、増刷（4冊）を重ねて、大森氏は第77回毎日出版文化賞を受賞している。E特で「戦争とラジオ」「敗戦とラジオ」を作り、NHK放送文化研究所で取材を続け「戦争とラジオ」にまとめた。

*** **

座談会次第

日時 1月24日（水）15時〜17時半

場所 テレビマンユニオン・B2（01会議室）

出席者 石橋映里、小川和之、木原毅、

新山賢治、鈴木嘉一、菅野高至、

深尾隆一、吉田賢策、渡辺祐史、

林健嗣（オンライン）。

メモ提出 三原治

放送人グランプリNONOING

投票締め切りは、

3月15日（金）まで。

2024/02/08：菅野記

2023年度下期・放送番組メモ

9月24日（日）21:00～、54分、NHKG、

NHKスペシャル「冤罪。の深層～警視庁公安部で何が～」

△語り：山根基世、D：石原大史、矢内智大、制作統括：東野真、内山拓、木村真也、制作著作：NHK

△警視庁公安部外事第一課第五係の「冤罪事件」を調査報道。2017年春～20年3月、大川原加工機の噴霧乾燥機。生物兵器と中国韓国に輸出。会社の代表者らが逮捕勾留され、約11か月も身体拘束された後、起訴から約1年4か月後、第1回公判の直前の21年7月30日、検察官が（内部告発の手紙で）起訴取消しをした。拘留中にガン発病も治療を拒否され死亡の相崎静夫の遺族に、謝罪無し。会社と拘留者2人と遺族は、国および都に国家賠償請求。

⇒続編があります。

12月23日（土）23:00～、60分。NHKEテレ

ETV特集「続報 "冤罪、深層～新資料は何を語るのか～」

語り：山根基世、取材：影山遥平、矢内智大、牧野大輝、D：石原大史、制作統括：東野真、木村真也、内山拓、制作著作：NHK。△放送後、12月27日判決、会社側勝訴。1月ともに控訴。

警視庁の複数の内部資料。経産省と警察・検察のやりとり（10月～）。「外事容疑性」は後付け。見せしめ逮捕。裁判では勝つ、と黙秘を貫く。起訴取り消し。警察官「許されるなら、謝罪したい」

10月1日（日）&8日（日）21:00～、49分、NHKG

NHKスペシャル「老いる日本の "住まい"」

第1回「空き家 1000万戸の衝撃」

都心の一等地から郊外のニュータウンまで、空き家が急増。「解体費用」「親の思い出」、壊すことも売ることができない。△ゲスト：ヒロミ、大久保佳代子、出演：野澤千絵（明大教授）、和田貴充（空き家専門コンサルティング会社）、語り：神田京子、司会：桑子真帆、△取材：野田洋明、D：荒川あずさ、占部稜、P：安倍公信、制作統括：細田直樹、棚谷克己、本間一成、

第2回「マンションに迫る2つの "老い"」

建物と住民、“2つの老い”。年若いでも安心して暮らせるマンションの秘策ほか。△ゲスト：ヒロミ、大久保佳代子、出演：齋藤広子（横浜市大教授）、久保依子（マンションみらい価値研究所）、語り：神田京子、司会：桑子真帆、△取材：野田洋明、D：荒井拓、中松謙介、P：安倍公信、制作統括：本間一成、細田直樹、棚谷克己、

10月15日（日）21:50～、59分、NHKBS1

BS1スペシャル「わが娘を手放した日 中国 "一人っ子政策" のその後」

D：房満満、撮影：張華東、余心併、P：郭強、

12月9日（土）22:00～、49分、NHKG

NHKスペシャル「わが娘を手放した日 中国 "一人っ子政策" のその後」

制作統括：夜久恭裕、鈴木真美、郭強、制作：NEP、制作著作：NHK、テムジン。

36年間続いた「一人っ子政策」の傷跡。アメリカなどで暮らして生みの親に会いたいと願う子どもはおおよそ15万。

番組では、21年ぶりに再会した親子に密着。

10月30日20:00～、30分、NHKEテレ

ハートネットTV「イツサさんを追って 技能実習生が見た "ニッポン"」

法律では妊娠すると技能実習をやめなければならない。妊娠をしたイツサさんはフィリピンに帰国。「在留期間の更新を心配せずに、将来設計も考えられる生活ができなければ、移民労働者にとって、日本は魅力的な国には映らない」高谷幸（東大准教授）△加藤麗、制作統括：渡辺由裕、小口拓朗、制作著作：NHK福岡

⇒⇒6月19日20日ハートネットTV 「特集 外国人技能実習制度（1）「改革」は何を目指すのか （2）あなたの隣の「実習生」」

10月29日（日）21:00～、49分、11月3日（祝・金）22:00～、89分、NHKG

NHKスペシャル「シリーズ "宗教2世"」

NHKスペシャル シリーズ "宗教2世" の概要

△みずからを「宗教2世」と呼び、様々な形で声を上げ始めた人々を長期取材によるドキュメンタリーと、当事者の実体験に基づくドラマ、2回シリーズで描く。

第1回『ドキュメント "宗教2世、を生きる』

△信じるものは違えども、親子が共に歩む道はないのか…。△音楽：清水靖晃、語り：中山果南、D：辻佐絵子、三浦規義、村山かおる、制作統括：梅内庸平、小笠原卓哉、制作著作：NHK

第2回『神の子はつぶやく』

姉・遥は「神の子」として育つ。非信者の父が急死。家族よりも神を選んだ母を怒り、姉は家を飛び出す。数年後、妹は変貌を遂げた姉と出会う。「神様が心から居なくならない」と呟く姉、2人は母のもとへ。母は姉と妹を受け入れる…。△脚本：川慮実、野田慈伸、柴田岳志、宗教考証：川島堅二、D：柴田岳志、P：家富未央、大越丈士、制作統括：田中健二、梅内庸平、制作：NEP、制作著作：NHK、△出演：河合優美、田中麗奈（母）、根本真陽（妹）、森山未來（父）、酒井若菜（信者）荻原聖人（説教師）、杉田雷麟（幼馴染・信者）、岩尾海史（教師）、渋谷清彦（緊縛師）、吹越満（謎の男）

11月5日(日) 25:28～、60分、TBS

ドキュメンタリー「解放区101歳のこぼれ～生活区画事件 最後の生き証人」

菱谷良一は1921年北海道旭川市で生まれ、小さいころから絵を描くのが趣味で、旭川師範学校の学生だった時に特高に逮捕された。美術部長の松本五郎らと、より良く生きるには「身の回りの生活をありのままに描く・生活区画運動」が大切だと絵を描いて、1941年9月20日思想犯扱いされ、20人以上が一斉に逮捕された、治安維持法違反。

△菱谷の絵「話し合う人々」は共産主義の本を読んで話し合っていると曲解された。菱谷と松本らは旭川刑務所に1年以上投獄された。

マイナス30度を超え、読書も不可で、何も出来無い。1942年12月26日懲役1年6か月執行猶予3年。菱谷、山本らは兵役で戦場へ。

△終戦後、菱谷は会社勤め。58歳、旭川公民館の絵画サークルに夫婦で入会。

△2014年に取材を始める…音更町の松本は93歳、高校の新聞部の生徒が訪れる。

△2019年「無二の親友展」を開催。2020年、写真家・高橋健太郎の取材を2人は受ける。2020年10月松本の告別式、菱谷は車椅子で列席。

△2022年5月、国会請願・治安維持法での逮捕拘留に対し謝罪と賠償を請求。支援者に松本の思い出を語る。

△事件から82年。独り暮らしを解消し、旭川の老人ホームで生活。散歩し、煙草を吸い、ダンディーを貫き、亡き友の遺志を継ぎ「最後の生き証人」として「新しい戦前」は許さないと声を上げ続ける…。

△ナレ：世永聖奈、朗読：古舘寛治、取材：竹馬悠、伊藤拓也、花城護、泉優紀子、D：長沢祐、P：山崎裕侍、写真・映像協力：高橋健太郎、制作著作：北海道放送。

11月19日(日) 24:55～、55分

NNNドキュメント 23「いろめがね～部落と差別～」

ナレ：湯浅真由美、監修：納富隆治、D&P：佐々木聡、撮影：山本健二、山本透、制作著作：山口放送。

全国各地の5,000余の被差別部落・一覧表がインターネット上に晒されるネット差別。リストを掲載した出版社を部落出身者が訴えた。△原告の一人、川口泰司(45)の体験。部落の子どもたちは今…。

△被差別部落出身をカミングアウトした新聞記者(西日本新聞)と対話。

△佐々木は取材を通して「私たちの中にある差別意識と向き合い、差別意識の正体とは何か」に迫る。

11月25日(土) 23:00～、60分、NHKEテレ

ETV特集「人新世 ある村にて」

人の活動が地球を飲み込む時代を「人新世」という。インドネシアの貧村。「プラスチック農家」はゴミを分別してプラスチックを工場へ。大気汚染、鶏の卵にダイオキシン。製紙工場のリサイクル処理でプラスチックが出る～村へ。△語り：池松壮亮、撮影：富永真太郎、糸数康宏、リサーチャー：倉地三奈子、コーディネーター：土居陽子、取材：土居建治、鈴木敬、D：久保田瞳、制作統括：梅原勇樹、制作著作：NHK。

12月16日(土) 23:00～、60分、NHKEテレ

ETV特集「森崎和江 終わりのなき夜」

姜信子が森崎和江を追う。大邱生まれの植民二世の森崎を追いながら、姜が近代をのりこえる旅。△語り：井上二郎、朗読：上田早苗、P：岩下宏之、D：吉崎建、制作統括：相沢孝義、梅原勇樹、制作著作：NHK福岡。

12月9日(土) 23:00～、30分×2回、TBSチャンネル(CSチャンネル)

トーク番組「テレビがくれた夢 山田太一」

出演：山田太一、聞き手：木村郁美アナ、P：矢島公紀。2013年6月&7月放送の再放送。

12月26日(火) 19:00～、114分枠、BSテレ東

4K絶景秘境シリーズ・第3弾「秘境黒部100年物語～未来へ紡ぐ守り人たち～」

旅人：小椋久美子。トロッコ列車で黒部宇奈月キャニオンルート(24年6月一般公開)走る。△水平歩道開拓、悲劇の志合谷宿舍跡、灼熱の高熱隧道掘削。山小屋の女主人が伝える「生きている黒部」ほか。

12月29日(金) 21:00～、

ファミリーヒストリー「草刈正雄 特別編～アメリカ 決意の旅路～」

8月放送の関連。父の姉に会う渡米編を詳しく。長女・紅蘭の証言：父の感情の揺れ。

取材：竹内美穂、木村利香、今井幸喜、コーディネーター：須山弘太郎、D：宗像竜大、制作統括：赤上亮、横山友彦、

制作協力：東京サウンド・プロダクション、制作：NEP、制作著作：NHK

12月30日(土) 10:00~17:30、TBS

『報道の日2023 対立する世界 ~戦争×格差×マナー~』

司会：関口宏、小川彩佳、情報プレゼンター：日比麻音子、ゲスト：恵俊彰、松村沙友理

総合P：菅琴袖、制作P：嶋暢大、番組P：西村匡史、演出統括：遠藤泰（フィックス）、総合演出：廣瀬誠（TBSスパークル）△1月～、月毎にニュース・話題をピックアップ。感染症ワクチンの障害と対策

<旧ジャニーズ問題>

10月2日(月) 19:30～、30分程度？ BS-TBS

『報道19:30 特集 旧ジャニーズ問題』

出演：松原耕二、堤伸輔（解説）、ゲスト：菅原絵美（大阪経済法科大学院教授）、水島久光（東海大教授）、志賀泰伸（元ジャニーズ `忍者`）

10月4日(水) 15:50～ 28分50秒 日本テレビ

『News every』の特集『ジャニーズ事務所の `性加害問題` を日本テレビとしての自己検証』

△95年～、24時間テレビ。怒らせるとキャスティングが出来ない。20年来ジャニーズで利益を得るもたれ合い。

報道キャスター桜井・小宮山、△2018年強制わいせつを巡る報道、言うべきことが言えなくなっていた…グルーミング。△報道局長・伊佐治健、編成コンテンツ戦略局長・森實陽三、ゲスト：田中東子（東大大学院・教授）

11月26日(日) 5:25～、34分、TBS

TBSレビュー『旧ジャニーズ事務所問題に関する特別調査報告』

出演：佐藤隆佑アナ、宇内梨沙アナ、特別調査委員会外部委員・片岡敏晃（弁護士）、TBSホールディング代表取締役社長・佐々木卓、国民に信頼される報道機関へ。

12月24日(月) 19:30～、27分。

クローズアップ現代+『検証 ジャニーズ性加害 救済の `壁` 』

事務所の在籍や活動を確認できないことが救済の壁になっている。補償の進め方を検証する。

~~~~○これより2024年○~~~~

1月17日(水) 22:00～、50分

### NHKスペシャル『あなたの名前を刻みたいと～阪神淡路大震災 遺族の29年～』

慰霊と復興のモニュメント。震災から8年後、直接死間接死に認定されてないが、遺族が震災の影響があつて死んだと考えているなら銘板を掲載する。運営の市民団体、堀内正美。23年に9人。みんなと一緒に、心が癒やされる。

語り：今井朋彦、朗読：平体まひろ、D：加藤弘斗、制作統括：佐藤祐介、制作著作：NHK大阪

1月23日(火) 19:30～、27分。

### クローズアップ現代+『佐藤優が語る 2024年の世界と日本』

シリーズ新時代へのエール②「他者を `理解` し合える世界へ 作家・佐藤優」

出演：佐藤優、池上彰、キャスター：桑子真帆

テレビのロングインタビューを拒み続けてきた作家・元外交官の佐藤優がクロ現に出演して、自身の秘話を交え、新時代への思いを語る。

佐藤は外交官時代、旧ソ連・ロシアの中核深くに入り込み、鋭い分析力から現代の“知の巨人”とも評された。

ウクライナ戦争やガザ紛争など不安定さを増す現代、最も必要なのは“他者の論理を理解すること”だと言う。

2024年、日本と私たちはどう歩むべきかを聞く。

ちなみに、エール①は「自分を見つめ踏み出す一歩を 作家・西加奈子」だった。長濱ねるも出演。

### <「光る君へ」関連・番宣>

1月2日(火) 21:00～、59分？ NHKG

### 歴史探偵「光る君へ コラボスペシャル」

ゲスト：吉高由里子、柄本佑。△平安時代とは。貴族社会。ほぼ番宣。

1月3日（水）21:00～22:29

### 【平安時代サミット 2024 ～本当に平安だったのか～】

知られざる平安時代に迫る。△道長に権力集中…平安時代は親ガチャ社会だった。愛憎渦巻く恋愛ドラマが平安をもたらした…女房たちのサロン。意外と国際的だった…唐貿易。地形変動で平安が終わった…不作、気候変動。制作著作：NHK、E&W

#### <ドラマ関連>

8月9日配信 Disney+

### 【季節のない街】シーズン1・60分程度・全10話

原作：山本周五郎、企画・監督・脚本：宮藤官九郎、D：横浜聡子、渡辺直樹、P：山本晃久、長坂まき子、半田健、△大震災から12年、未だ残る仮設住宅を舞台に、最低で最高の人情エンターテインメント。①街へゆく電車、②親おもい、③半助と猫、④牧歌調、⑤僕のワイフ、⑥クローラのある家、⑦⑧がんもどき、⑨たんばさん⑩とうちゃん、△出演：池松壮亮、渡辺大知、三浦秀子、濱田岳（六ちゃん・空想で電車を走らせる）、鶴見辰吾、ほか。

△主人公・半助（小説家志望）が住民観察のレポートを書いて幾ばくかの金を貰っている。仮設の跡地に再開発を目論む企業から。

10月8日（日）22:00～、53分程度、全5回・WOWOW

### 【フィクサー Season3】

脚本：井上由美子、企画P：青木泰憲、D：西浦正紀ほか、P：村松亜樹、高田良平、黒沢淳、制作協力：リオネス、制作著作：WOWOW、出演：唐沢寿明、町田啓太、内田有紀、要潤、斉藤由貴、陣内孝則、西田敏行、小林薫、

10月16日（月）22:45～、15分×全32回・NHKG

### よるドラ【ミワさんなりすます】

原作：青木U平、脚本：徳尾浩司、演出：新田真三、寺崎英貴ほか、P：上田明子、大久保篤、制作統括：渡辺悟、制作著作：NHK、出演：松本穂香、堤真一、恒松祐里、山口沙也加、片桐いり、高岡早紀、

映画オタクのミワは、推しの大物俳優の家政婦・美羽さくらとして働く幸運を手に入れる…。

10月22日（日）22:30～、46分×全10回、日本テレビ、

### 【セクシー田中さん】 △編集部注：下馬評では取り上げていませんが、「記録」として掲載。

原作：芦原妃名子、脚本：相沢友子、D：猪股隆一、CP：三上絵里子、大井章生、田上リサ、出演：木南晴夏、生見愛瑠、前田光輝、毎熊克哉、安田顕、制作協力：AX-ON、制作著作：日本テレビ、

11月12日（日）22:00～、53分×全6回、WOWOW

### 【ozu～小津安二郎が描いた物語～】

生誕120年。初期サイレント映画6作をリメイク、オムニバスドラマ形式で。

「出来ごころ」「生まれてはみたけれど」「非常線の女」「淑女と髭」「東京の女」青春の夢いまいづこ

原作：小津安二郎監督の映画、企画P：徳田勝久、P：堀口敬太、原克子、勝本考、製作：WOWOW、松竹、

#### <ラジオ番組関連>

ジェーン・スーが非常に面白い。NHKのお気に入り。

TBSラジオのお昼をやっている彼女は日本人。NHKの出演番組を一覧にした。

### 5月3日（水）7:30～、25分、NHKG【インタビュー ここから ～あの人の『原点』に、アナウンサーが迫る～】

企画制作聞き手：杉浦友紀アナ。25分を55分の完全版としてラジオ第1で放送。好評を博して大晦日13時に再放送。

番組HPより：コラムニスト・ラジオパーソナリティーのジェーン・スーさん。民放ラジオで生活情報やお悩み相談の番組のパーソナリティーを務め、担当する堀井美香アナとのポッドキャスト・スポティファイ（配信番組）は、リスナー総数18万人。

いま幅広い年齢層の女性から圧倒的な共感を集めているスーさん。その魅力は、言葉の選び方や言語化してくれるところだという。

6月2日（金）8:15～、NHKG【『あさイチ』のプレミアムトーク】、

6月19日（月）14:00～、NHKR1【ごごカフェ2時台 カフェトーク/ジェーン・スーさんが来るよ】聞き手：武内陶子アナ。

5月5日（金）9:00～17:55、J-WAVE

### 「J-WAVE GOLDEN WEEK SPECIAL A TRIBUTE TO RYUICHI SAKAMOTO」

ナビゲーター：サッシャ、ゲスト：大貫妙子、大友良英+小山田圭吾、コメント：福岡伸一ほか

坂本龍一（71）を偲び、レギュラー番組『RADIO SAKAMOTO』20年分のアーカイブからの「トークやライブ音源」と、生前ゆかりの人々からのメッセージなどで構成。坂本が目指した音楽とは…音符で表現できないところに到達した音楽家の境地を伝えるヒューマンドキュメント。

5月28日（日）?? 55分、北日本放送

### KNB報道スペシャル「統一教会と富山政界」

ナレ：陸田陽子、編集：荒山知徳、構成：数家直樹、制作統括：河原哲志。△旧統一教会と富山政界との関係を追った番組。

保守王国の富山県。安倍元首相銃撃事件を契機に行った綿密な調査報道を集大成としてまとめた。明らかになったのは、旧統一教会の関連団体が素性を隠して、富山政界に深く入り込んでいる実情だ。取材を受ける政治家の言葉からは、「後ろめたさ」が伝わってくる。本来の政治、政治家のあるべき姿を社会に鋭く問いかける秀作である。（受賞理由を転記）

23年度日本民間放送連盟賞（11月7日）で、「ラジオ 準グランプリ」（賞金150万円）と「ラジオ報道部門 最優秀賞」（賞金50万円）を受賞。

5月31日（水）20:00～、60分枠、ラジオ沖縄

### 「Basketball island OKINAWA ～沖縄バスケ100年の歴史～」

企画・制作・ナレーション：杉原愛アナウンサー、出演：日越延利、宮里幸男、張本文昭。

ワールドカップを控えた沖縄とバスケットボールとの関わり・歴史・沖縄ならではの戦い方などを、関係者・選手へのインタビューで構成したもの。キングスのBリーグ初制覇の模様も交え、優勝直後の5月31日に放送された。沖縄とバスケの歩みが立体感とうねりを伴い伝わってくる。地域スポーツの振興に貢献するローカル民放ならではの作品。

2023（令和5）年度日本民間放送連盟賞 ラジオ・教養番組部門の最優秀賞を受賞（賞金50万円）。

### 大森享郎のラジオ番組出演歴と略歴

8月9日文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」。

8月15日・29日TBSラジオ「荻上チキ・Session」。なお、8月29日放送分は年末にも再放送。

大森氏の略歴：元NHK職員、E特で「戦争とラジオ」「敗戦とラジオ」を演出、ラジオの戦争責任を問題提起。NHK放送文化研究所に異動して、同研究所の月刊誌「放送研究と調査」に17年8月号より5年にわたり「戦争とラジオ」を掲載した。それを一冊にまとめて23年6月下旬に出版。各紙絶賛・話題沸騰となり、増刷（4冊）を重ねて、大森氏は第77回毎日出版文化賞人文・社会部門（23年11月3日発表、賞金100万円）を受賞した。

9月21日（木）20:00～、55分、TOKYO FM

### 「TOKYO FM 特別番組『海を越えたシティポップ』」

今なぜ日本のシティポップが海外で受け入れられるのか。日本の近代音楽史上見られなかった、海外でのシティポップブームの背景に迫る意欲作。パーソナリティーの佐々木俊尚（ジャーナリスト）がニューヨークのレコード店の店主、音楽ライターや音楽評論家、アメリカのDJ、音楽博士たちに取材している。

12月26日（火）～28日（木）3夜連続 19:00～、55分、文化放送

### 「文化放送年末スペシャル 『日本沈没』を探す旅」

案内役：伊東四朗、出演：濱井武（光文社元常務）、山岡耕春（名古屋大大学院教授）、小松実盛（左京氏次男）。

小松左京の小説「日本沈没」の発表から50年。小説が発表された年の11月4日、文化放送はラジオドラマ「ここ過ぎて悲しみの都へー『日本沈没』よりー」（脚本：横光晁）を放送した。1973年度芸術祭優秀賞受賞。50年前の作品をリマスタリングして放送する。なぜ小松左京は「日本沈没」を生み出したのか？ 未来についてどのように考えていたのか？ 専門家や身近な人たちの証言をもとに構成、興味深い展開が秀逸だった。

24年1月3日（水）15:30～、135分枠、文化放送、

### 「文化放送新春スペシャル『日本沈没』を探す旅 特別編 初語り」

案内役：伊東四朗（前半）、鈴木敏夫（後半、文化放送解説委員）、出演：中尾彬（73年のドラマ出演者）、日色ともゑ（同左）、小松実盛（左京氏次男）。1973年のラジオドラマを、ほぼ完全な形で再放送し、50年前の主演・中尾彬と日色ともゑがドラマを振り返るとともに、時に「日本沈没」から脱線した新春トークを展開する。

12月26日(火) 18:00～、55分枠、文化放送

### 「市川猿翁 追悼特別番組 駟ナ抜けた83年～夢は終わらない」

出演：市川左團次、坂東彌十郎、市川笑也、桜井久美(衣装作家)、児玉隆一(早大教授)、進行：水谷加奈アナ。△三代目市川猿翁の助時代に「スーパー歌舞伎」を創設し、革新的な舞台で日本中を仰天させた稀代の歌舞伎役者・二代目市川猿翁が今年この世を去りました。番組は、ゆかりの方々へのインタビューや貴重な歌舞伎の舞台音源、文化放送に出演した際の肉声などを紹介、その創造的、革命的な精神が次の世代にどのように引き継がれてゆくのか、「歌舞伎の未来」についても探っていく。

12月24日(土) 7:30～、30分、NHKR2

### 「視覚障害ナビ・ラジオ "青い鳥楽団、を追って」

12月26日(火) 18:05～、45分、NHKR1

### 「いのちの音楽 あるハンセン病の音楽家を追って」

出演：阿部海太郎(作曲家)、穴澤雄介(ヴァイオリスト、全盲)、木ノ下裕一(劇団「木ノ下歌舞伎」主宰。聞き手：瀬田宙大アナ。△NHKドラマ「らんまん」の音楽担当で作曲家の阿部海太郎が長年追っている「青い鳥楽団」は、ハンセン病療養所の元患者が、70年前に結成したハーモニカ楽団である。その録音に圧倒される熱量を感じた阿部さんは、更に楽団リーダーで作詞作曲の近藤宏一(全盲、09年没)の埋もれていた楽曲を調査の中で発見した。  
△「分断」が更に色濃くなった2023年。貴重な音源を元に、近藤さんたちが音楽に込めていたものを探っていく。

12月26日(火) 20:00～、60分枠、TBSラジオ。

### 年末特別番組「金子鈴幸のサブカル・メメント・モリ」

脚本・演出：金子鈴幸、出演：金子鈴幸、細井じゅん、大宮二郎、畦田ひとみ、山本恵里加、制作：橋本P  
金子鈴幸(すずゆき)は劇団「コンプサンズ」の主宰・脚本家。劇団で上演した作品に少し登場した「架空のラジオ番組『サブカル・メメント・モリ』」を実際に放送する・実験的ラジオドラマ番組。  
2039年から2020年代を振り返る、サブカル好きの男女の出会いを面白く描いている。大根仁さんの『モテキ』のような味で、カエル現象の男女を巧く描いている。金子は脚本、主演、演出。注目の人である。制作の橋本Pは宇多丸、ジェーン・スーを発掘した。

12月31日(日) 19:00～、60分、ニッポン放送

### ニッポン放送報道スペシャル「関東大震災から100年…112歳の証言と未来への提言」

出演：高嶋フジ(旧姓平井フジ/今年10月逝去)、平井光義(フジさんの弟)、蟹江康光(「ジオ神奈川」代表)、蟹江由紀(「ジオ神奈川」事務局長)、松岡昌志(東京工業大学教授)。ナレ：上柳昌彦、絵本朗読：那須恵理子、構成：長谷川浩二、技術：イメージファクトリー石垣哲、取材・制作：ニッポン放送 遠藤竜也、藤原高峰。  
神奈川県逗子市で関東大震災を体験した高嶋フジさんの貴重な証言と専門家による今後の対策を通して、地震大国に生きる私たちが大規模災害にどう向き合うべきか、を考える。

5月28日(日)に放送して、多くの反響が寄せられた特別番組『関東大震災から100年…111歳の証言』を、今年10月に高嶋さんがお亡くなりになり、改めて彼女の貴重な“生の声”を伝承すべく、一部再編集したもの。

～～放送人グランプリ2024の投票締め切りは、3月15日(金)必着です。～～



### 第53回名作の舞台裏

### ソープ嬢モモ子シリーズ

### 聖母モモ子の受難

(TBS…一九八三年9月24日放送)

日時：24年1月20日(土)

場所：横浜情報文化センター 情文ホール

ゲスト：竹下 曇子(出演、

橋爪 功(出演)

VTR出演(放送人の証言から)

堀川とんこう

司会 渡辺純史(放送人の会)

番組概要

風俗店勤めで1億円貯めたモモ子は学習塾経営を夢見ていた。そんな折、校内暴力で不登校になった中学校教師(柄本明)と知り合う。隣に住む市原(橋爪功)はサラ金に追われていた…。

サラ金、長欠児童など、この時代の社会問題をドラマの核に据えながらも、喜劇サスペンスに仕上げた作品。

※今回の「名作の舞台裏」について※

放送人の会がこれまで収録・収集してきた「放送人の証言」やドラマ動画・画像資料を用いることで、より、アクチャルで多彩な内容と

することができないかを試みたものである。  
担当：渡辺純史

### 映像資料編集・送出：深尾隆一

**渡辺** お二人に、一言ずつ挨拶いただきます。  
**竹下** 皆様こんにちは竹下景子です。懐かしい作品をご覧いただきましてありがとうございます。嬉しいです。もうみんなあんまり若いんでびっくりしちゃいました。でも、本日、こういう時間を皆さんと一緒に持てるのが楽しみです。

**渡辺** 橋爪さんも一言どうぞ。

**橋爪** 今日こんなにくさんお見えになって、よっぽど皆さんお暇なんですね。(笑い)どうぞよろしく願っています。(拍手)

**渡辺** どうもありがとうございます。さて竹下さんは、この「名作の舞台裏」4回目です。

**竹下** そんなに呼んでいたの。

**渡辺** 「モモ子」の第1作「十二年間の嘘」、黄金の日」、それから「坂の上の雲」。

**竹下** はい。

**渡辺** それ今回、4回目になります。橋爪

さんは、初めてですね。

**橋爪** 名作に出てないもんですから(会場笑い)。

**渡辺** さて、この作品の演出は堀川とんこうさんで、二〇二〇年にお亡くなりになりました。とんこうさんと竹下さんと橋爪さんの3人は、私が最も敬愛するヘドドラマ界の名人です。名人3人、堀川さんと竹下さんと橋爪さんが初めて一緒に組んで作った「モモ子」ですので、2作目であり、橋爪さんの出演が少ないにもかかわらず、あえてこの作品を取り上げました。80年代から90年代にかけて「モモ子」は8作作られました。そのシリーズ全体について、また名人のお2人が如何にいろんな方と切磋琢磨して今の芸歴をおつくりになったのかなど、今日は、その辺の全てもつるも語

っていたきたいと、この催しを企画した次第です。

なお、放送人の会では、事業としての「放送人の証言」を収録してきました。今回は、故人となられた堀川さんの「放送人の証言」を紹介し、併せて関係映像資料等もお見せしながら、トークを始めます。

「モモ子」シリーズの企画は、竹下景子さんがソープ嬢として出演をOKしたことから動き出した。

**渡辺** それでは、早速、堀川さんの証言です。

【VTR】堀川 マイホームのために買った土地を手放してしまつたことを知られるのを恐れ、妻を絞め殺した上場企業の課長さんの事件が朝日新聞のコラムに載つたんですよ、これをサスペンスでやりたいということで、市川(脚本家)さんに、この事件悲しいだろう、ぜひやろうって言うと、市川さんも面白い事件だ、やろうっていつて、何回も打ち合わせしたんだけど、結局、市川さんが、「これはただの悪妻を描くことになるだけだから、ドラマにならないよ。いい話でもドラマにならないのはあるんだよって言つて、いったんは諦めたんだけど、電車の中(の中吊りの週刊誌の広告)で、「ソープランド嬢が月に二〇〇万稼げる」というのがチラッと見えて、あの土地をもしソープランド嬢が持つていたら現在、どうなるかなと思つたら、もう物語がほぐれて、市川さんにどうだつていつたら、ソープランド嬢が登場することになった。

それで、ソープランド嬢は誰がやるんだつていうので、最初に電話したのが、歌手の都はるみで、事務所に電話したんです。それから、四ツ谷のサンミュージックにも行きました。そしたら、断られたんです本人がとんでもない、と。

困つたなあということになって、そしたら市川さんが、「竹下景子はやらないよな」つて言つたんですよ。

**石橋冠**(インタビュアー) クイズダービーで当たつて、お嫁さんにしたい女優ナンバーワンでしたからね。

**堀川** でも、やらないかどうか知らないつて、すぐ事務所に電話した。そしたら竹下さんの事務所から、興味ある、プロット見せてくれつて話になって、プロット見せたら、もう二つ返事でやりますとなつたわけです。やつぱり竹下さんが女優としてね、何かどっちなかに踏み出した時期ではあつたと思つて。

このままじゃ、ただのお姫様女優で終わっちゃうんじゃないかっていう、なんか新境地を開きたいという、そういうタイミングとピタッと合つたんだろうね。それと、市川森一に対する信頼感つていうのもあつたと思います。【**渡辺** これは今から8年前、石橋冠さんが聞き手のインタビューで、昔の話の手柄話風になつていますが、あらためてお聞きします、ご本人の事情はどうだつたのでしょうか？

**竹下** 都はるみさんのお名前は、ここで今初めて聞きましたが、プロットを持つて、とんこうさんが事務所においでくださったときには、もう私は二つ返事でやらせていただきましたつて、意欲満々でした。客観的に見ればちようどクイズダービーが24歳くらいで、この第1作のモモ子は28歳の年ですから、そういうふうに見られても当然なのかなつていう気がします。

**渡辺** 彼の著作(「ザー」とドラマを作ってきた)にも、「もう1年早かつたら、景子さんはこの役を引き受けなかつたかもしれない。企画の意図、脚本の面白さ、それが楽しい仕事になるだろうということを感じ取ってくれる、ちようどいい年になつていたので、それは実にラ

ッキーだつた」とあります。



**竹下** ああ、そうかもしれないですね。ちようど同時期に「北の国から」の収録が始まつたこともあつたので、ちよつと私自身が、それこそ、とんこうさんの言葉を借りれば、自分を変えたいつていうふうにして、そのとき自覚はないんですよ、全くないんですけど、そう思つていても本当に不思議はないタイミングではありましたね。だから、私自身も怖いもの見たさで、ちよつと冒険したいなつていう気持ちになつていたとは思っています。

**渡辺** 竹下さん、実際に演じるときに、下見をなされたんですか。

**竹下** 行きました。第1作の前に、堀川とんこうさんと市川森一さん、メイNSTAFFの方に、私も混ぜていただいて昼間、吉原に行きました。いろいろ教えていただきましたよ。

**渡辺** 竹下さんは大胆にも自分で衣装を選んでこられて、それらしい雰囲気積極的に出してくれた、と本には書いてありましたが。

**竹下** 1作目に関してはそこまでのことはなかったんですけども、この2作目に関しては割合いろんな私物を持つていつて、絶対よそでは着られないというような奇抜なものを、モモ子のために用意して持つていきました。

**渡辺** そうですか。市川森一さんとの最初の仕事は、RKB毎日の「霧の日の童話」(76年12月)だと思つんですが、それでよろしいですか。

竹下 いえ、初めてではないです。市川森一さんの本で、最初に出演させていただいたのはこれより前、北海道のHBCで、旅芸人の女をやらせていただいたのが最初です。東芝日曜劇場です。

実はその作品が、ちよつと因縁がついたんです。市川さんは旅芸人の女を主役にして書いたもので、主演のところに私の名前があつたんですが、私がまだ新人だったので、プロデュースさんが一緒に出ていた目黒祐樹さん主演の作品にすべきだつて言われて、市川さんが降りたんですね。

結局、私は、出演はできて、作品もちゃんと放送されたんですが、市川さんのクレジットは、脚本ではなく「原作」とかの類になつたんです。私とても、そのときの市川さんに意気を感じたというか感激をしました。その次が、「いま、おつしやられたRKBの『霧の日の童話』でした。」

(注)結果的に、HBCの作品「袖触れあうも」の放送は77年5月になつた。

渡辺 はい。その後がNHK大河ドラマ「黄金の日」。

竹下 そうですね。

渡辺 はい。橋爪さんは「寂しいのはお前だけじゃない」というので、市川さんと初めて…。

橋爪 あーん。(会場笑)

竹下 記憶があります？

橋爪 ちらつとね、でも、ドラマ全体通して見ないんでね。俺、やつたドラマは。

竹下 あんまりご覧にならない？

橋爪 ほとんど見ない。

竹下 昔から？

橋爪 昔から。

竹下 そういう主義なんだ。

橋爪 自分のうち眺めるようでね。(笑)変な言い方だけど、でも、何年か経つてから見る

しばらくしてから見ることはある。見て、俺はうまいなーと思うときもある(笑)。

竹下 そうでしょう(笑)…。

渡辺 わかりました、そうですね。ありがたうございました。それでは、この2作目聖母モモ子の受難の制作のきかけについて、証言VTRをどうぞ。

【石橋 第一作の「十二年間の嘘」を撮り終わつて、これが8本も続くとは思つていましたか？

堀川 まあ、思つてませんでしたね。思つてませんでしたけども、主人公はサラリーマンなんでしょうね。狂言回しでモモ子が出てるんだよね。ところが、視聴率が凄いい、37なん%です。景子さんがやつたからね。

番宣なんか喜んで、「竹下景子さんがソープランド嬢だ！」などと書きまくられるでしょう、であれば、あの数字もあるわけですね。編成はすぐに「当たつたのでパート2はないか」と言うわけね。それで、ああそうかつていうことで、今度はモモ子を主人公にしたシリーズになつていったんです。】

竹下 私としては、言つてみればアウトローの役をやらせていただけのつていうのは、もう一生に一度のチャンスだと思つたもんですから、そのことが割と一人歩きした部分があります。言われたことに対しては、私自身も結構面白がつていた節はありますね。

第一回がかなりのヒット作だったので、その後ストリップとか、割とそういう露出系の役が単発までずいぶんきましたね。面白いですね。

渡辺 このシリーズ、竹下さん自身も8作も続くとお思つていましたか？

竹下 いえ、もちろんないです。

渡辺 シリーズ化されたモモ子の一覧表つていうのをちよつと表にしてあるんですが、見

てください。

一作目「十二年間の嘘」今日、見ていただいたのが93年の「聖母モモ子の受難」。ここから橋爪さんが出ていらつしやる。次が3作目の「スキヤンダル黙示録」。

竹下 前後編でした。

渡辺 はい。「グッバイ・ソープガール」は橋爪さんの出番がお休みで、5作目「サザエロード巡礼」6作目「芸者モモ子の復活」、7作目「モモ子の罪と罰」といつて、7年後に「最後の審判」ということで、8作、作られたシリーズでした。

橋爪 功さんのお名前も、表の中にはずつと入つてますから、覚えてらつしやいますか？

橋爪 すいません、何も覚えていません。(会場・爆笑。この2作目で覚えてるのは子供と一緒にのシーンがあるでしょ、廊下のシーン、あそこは良く覚えてます。なにかね、子役さんが喋りに来るんですよ、そのときにウルセーつて言つてジロツと睨んでやつたら、ザーつと側に来なくなつてね。父親役で、後で苛める役じゃないですか、それもあつて、別に嫌いじやなかったんだけど、それで始まつたら、本当に怖がつちやつて、それで芝居で、蹴つたり殴りかかったり、結構アドリブでやつたんですよ。もう本当にね、それは引きつりそうだったから、あの子がー。

竹下 でも、それに通じるものも私感したシーンがあります。

橋爪 何言つてんの？

竹下 この回じゃなくても、いくつもね。でも、さつきご覧いただいた回の、初対面のちよつとした捨て台詞を言つて、橋爪さんがぱつと去るあそここのシーンも、非常に良かったんですよ、本当。

渡辺 ハードボイルド風だね、

竹下 そうそう、格好いい。

渡辺 体の切れがまたいいし、殺される時の足のピンと跳ね上がったところなんかは、ね。

橋爪 殺されるとこもあつたんですね。

渡辺 ありましたよ。

橋爪 いや、見なかつた。

渡辺 そうですか、堀川とんこうさんがこんなふう書いてます。(読む)

「橋爪功さんとの最初の付き合いが何であつたか思い出せないが、今となつては、名優の人に私ははずいぶんといろいろと小さな役をやつてもらつてきた。モモ子シリーズでは、元ホストの殺人犯、粗暴なトラック運転手、ずる賢い番頭、芸者でつまずく政治家、自転車やつてくる殺し屋など、変な役を次々と引き受けてつてもらつた。」



橋爪 そんなたくさんやつてたんですね！

「パート4では役がなくて出演しなかつたが、それを知らずに偶然放送を見ていた橋爪さんが、あつ！俺、どうしてこれに出てないんだ、と叫んだという話を聞いて、私は嬉しくて、またずつと出てもらつていい。」

渡辺 ……こう書いてますよ。

橋爪…今も新劇の舞台をやつてるんですが、本当に新劇の役者は仕事がないんですよ。ラジオは結構やつてたんだけど、テレビで割と使

ってくださったのが、とんこうさんで、何かにつけて使ってください。TBSでテレビ小説ってあったでしょ。あれなんか、ちよこちよここと出してもらって、今度おいでよって言うて。だから、僕は何て言ったらいいんだ、お友達じゃなくて、もう恩人ですね、堀川とんこうさんは。

渡辺 そうですか。

竹下 でも同じような思いを、多分、とんこうさんもお持ちだったと思いますよ。文章からも滲み出ています。

渡辺 演出家がこの役でやって欲しいと思つと、説明をしなくてもその通りにやってくれる、こんな貴重な役者さんはいなかったと言つて感謝してますね。

さて、ここに映像があります。4作目の「ザザエロードの巡礼」の粗暴なトラック運転手という役なんです、その映像です。ご覧下さい。  
(映像：ドライブインで働くモモ子、やさぐれたトラック運転手(橋爪)に深夜の食堂の厨房で襲われ、必死に抵抗して、蕎麦とそば粉まみれの乱闘になる。)

渡辺 お行儀のよろしい今世の中では、フリードrossの問題もあつたりして、このようなシーンは多分放送に出せないかもしれませんが、これまた80年代、この時期のおおらかさというのでしょうか、このシーン覚えてますか？  
橋爪 何で言われるのかな、覚えてないんだらうつて。(会場、爆笑！)

竹下 私はもうこの本を読んだときに、どういうシーンになるのだらうと思つて。とんこうさんはとても丁寧に誠実に演出をしてくださるんですけど、ここは、ほとんど演出は橋爪さんでした、本当。  
橋爪 そうですか？

竹下 アドリブってことは殆どなかったと思

いますけれども、なんているのかしら、リアリティというか、(芝居の)上手さに舌を巻きました。

橋爪 なに、うまさつて？

竹下 これ、形を変えたらラブシーンなので、こつちは何の不安もなくできるんですよ。よくこういう立ち回りすると、なんか悲たけになつたりすることがあるんで、そういうことは全くなかつたので、扱いがお上手でした。(笑)そのことを本当によく覚えてます。そしていいシーンになりましたでしょ。

渡辺 これ、台本にお蕎麦を使うつて指示があつたんですか？

竹下 どうだったか、もしかしたら演出だったか：：わかりませんが、後日、市川さんが、あのワンシーンをどうしても僕は入れたかつたつて仰つていましたね。

渡辺 なかなか印象深いシーンではありましたね。

橋爪 ありがとうございました。

渡辺 あんまり嫌らしくなく、格闘技を見てるみたいで、

竹下 そうなんです。エクササイズつて感じてました。

80年代はドラマの黄金時代  
渡辺 さて、時代とドラマの話をしませう。モモ子シリーズは「2時間ドラマ」なんです。2時間ドラマは77年のテレビ朝日から始まつているんですね、TBSは後発で、日本テレビが続き、「土曜ワイド」とか「火曜劇場」、だとかいろいろあつて、それにぶつたのが82年のTBS「ザ・サスペンス」であつたようです。それでは、とんこうさんの証言をお聞きください。

【石橋 ザ・サスペンスの枠があつて、モモ子が出てきたつてのは面白いですね。  
堀川 だから殺人が必ず起きてるんですよ。

それで殺人の謎解きがあるんですよ、ちゃんと。それがないと、(視聴率の)数字も取れないつてこともあるし、縦線の引つ張りはそのなんですよ。

石橋 なるほど。その「ザ・サスペンス」は？

堀川 10年、丁度10年になりますね。

石橋 その中には、堀川さんの作品がものすごく詰まつてますね。モモ子シリーズも8本もありますよね。「アリスの穴の中で」(90年)。

堀川 色んなことをやりましたね。

石橋 「私を深く埋めて」(84年)、「恋人たちのいた場所」(86年)、「ステイルライフ」(89年)。モモ子をやりながら、「女優・小夜子」がありましたね。

堀川 小夜子はね、これは、モモ子ともどもうまくいったんでね。】

(注)「私はポルノ女優・小夜子の恋」86年、「ポルノ女優・小夜子の冒険」87年、「ポルノ女優・小夜子の遺産」88年、「ポルノ女優・小夜子の最後の冒険」89年。

渡辺 いわゆるこういうポルノ的な、あるいはエロティックな素材といつたものが、やはり、その時代で、特に2時間ドラマを中心に、放送されていたということでしょうか。ですから、堀川さんもそれを意識しつつ、彼はTBSの幹部でもありましたから、数字を取らなさいいけないつていうことがあつて、制作者、編成担当者としてもいろいろ考えて、こういうものを意図的に、おつくりになつた。橋爪さんも「ステイル・ライフ」(89年)とかいろいろ出てらつていますよね。

橋爪 とにかくあれですよ。ドラマ全盛期ですよ、その頃。

渡辺 ちよこちよこ世の中がバブルに向かう直前というか、70年代のいろんな混乱が終わつて、モモ子の第1回るときにはまだマイホームが

欲しいという切実な庶民の願いが、だんだん叶えられてきて、今度は欲が絡んできたという社会状況の中で、中森明菜のデビューは82年、歌の世界でも芸能の世界でも百花繚乱という感じで、いろんなものが出てきた時代に「モモ子」があつた、ということですよ。



渡辺 紘史

さて、とんこうさんと橋爪さんの話に戻ります。この本(ザーツとドラマを作つてきた)の107ページにこんなふう書いてます。これも遠慮がなくて、橋爪さんには失礼かもしれませんが、(読む)

「若い頃は遠慮なく言えば、どう見ても悪人面で、テレビでは変質的な犯人などの役に使われることも多かつた橋爪さんも、中年になつていい顔になり、元々高かつた演技力に風貌の方が追いついた。こんなことを言つたら、かえつて失礼なのだが、(中略)長い間小さな役で辛抱してもらつた感謝の気持ちも込めて、一九九五年に橋爪さんの主演で、松本清張さんの自伝風作品「父系の指」を撮つた」

渡辺 という風に書いています。これもちよこちよこと短く映像を作りました、どつぞ。

(映像：父系の指 清張の父親(橋爪)が、故郷への想いを息子に語つて聞かせている。

モモ子シリーズの素敵な仲間たち

渡辺 先ほどの蕎麦まみれの格闘とは、ずいぶん違った役回りでしたね。

竹下 でも、結構、堀川さんの最初の橋爪さんのイメージって、新劇だと私も思っていて、今、伺ってましたけど、とんこうさんの選球眼って言いますかね。橋爪さんはもう本当に長いお付き合いの中で、堀川さんは絶対の信頼を置いて、いつも配役してらっしゃったと思うし、モモ子で言えば柄本(明)さんも、このときに初めて一緒にさせていただいたんですけど、不気味でしたよね、怖い。(会場笑い) 本場に素敵な俳優さんを、堀川さんは大事にされていて、蟹江さんもすごい出てましたね。そういう人が好きだったんですね。ですから刑事さんのコンビで、蟹江敏二さんと小野武彦さんはずっと一緒にしましたけれども。「モモ子」のレギュラーって、とんこうさんが仰った中では、佐藤慶さんも最初の1作目から出てくださってましたけど、やっぱりそのセンスっていうんですか、とんこうさんの役者を見る目っていうのは優れていらしたんだなって、改めてこうやって振り返ると思いません。

橋爪 と同時にね、役者の方も、僕もみんなそうなんですけど、とんこうさんから口かけられると、やりましようって即答になっちゃう。

竹下 ああ、そうですね。はい。最初からそうですね。

橋爪 あと、市川森一さんも、森一さんのホンだからっていうと、これは絶対面白いだろうと思うって、もう一も一もなく引き受けたくなつてね。森一さんはね、あの優しい顔してるけど、さつきもなんか降りるとおっしゃったけど、強い人なんですよ。



橋爪さんずっと悪役をやっていたかっ!

渡辺 ここから、一旦堀川さんを離れて、この時代、橋爪さんがいろいろ活躍なさっている、その一端を紹介しましょう。まず映像出してください。これはNHKで、吉村昭さん原作の「海も暮れきる 小豆島の放哉」(85年という作品です。(番組スタイル映写))

橋爪 これはね、私が個人的に自分の今までの中でナンバーワンと思ってるんですよ。

渡辺 これは素晴らしい作品です。自由律俳句で有名な俳人・尾崎放哉が流浪の末に渡った小豆島で最期を迎えるまでの8か月間を描いたもので、俳優は橋爪さんお一人だけ、地元の小豆島の方が出ていました。

「海も暮れきる」は、放送ライブラリーで見られます。ここが6階ですから、9階の視聴ブースで見られます。

橋爪 ぜひご覧になってください。

渡辺 その次に、これは大河ドラマ「武田信玄」(88年)で武田幸隆、国衆の一人で、ドラマ終盤の信玄の重要な相談相手の一人。これも橋爪さんにぴったりでした。

そして、これを「ご覧ください。私蔵ビデオではないが89年の「青春家族」です……。(青春家族の映像が上映される)

橋爪 これで私の名前と顔が全国区になったんですよ。ただ嫌なのは、「青春家族」から僕には、ほとんどいいお父さんの役ばかりが来ちゃった。今でも、それがもう嫌で嫌で、何度もいろんなプロデューサーに、今俺に人殺しの役をやらせたら、最高の人殺しの仕方するよって言うんだけど、誰もやらしてくれない。うちの事務所の社長なんか特に「いやいや、いや、イメージがありますから」とか言っちゃってる。

竹下さんもう一つの役柄は出戻り娘?

渡辺 一方、竹下さん、80年代は、「北の国から」ですね。

竹下…最初、半年24話の連続ドラマがヒットしたものですから、以後スペシャルドラマで、トータル20年ですね。

渡辺 竹下さんといしださんの喫茶店のシーンからドラマがスタートするんですね。

竹下 はい。いしだあゆみ(金子)さん。別れた主人が田中邦衛(五郎)さんでした。私はあゆみさんの異母妹(雪子)でした。

渡辺 それから今度は、男はつらいよで、これも3回違った役で出てるでしょう。

竹下 多分、キャスティングに行きつまったんでしようね。私はそう思ってるんですけど。

渡辺 ただ、見事に全部、出戻りだったりね。竹下 そうそう。

渡辺 3作目は、離婚中で、パリでツーリストアテンダントやっている役でしたね。この頃の竹下さん、そういうイメージなんですかね。竹下 (笑い) それを山田監督に聞いていないのでわかりません。

橋爪 竹下さん、映像見てたら、すーっと入ってくるの、良い意味で邪魔にならない。竹下 はい、ありがとございます。

山田太一作品 山田洋次監督作 山田太一作品について語る

以下のトークでは、お二人の出演作品を紹介し、両山田、倉本作品について語っていた。

山田太一脚本作品

竹下さん 東芝日曜劇場 初めての連続ドラマ

「丘の上の向日葵」(93年4月) P・堀川とん

こう、演出・清弘誠、高橋一郎。

舞台「浅草・花岡写真館」後にテレビドラマ化

(NHKBS1・00年12月)

橋爪さん 「時は立ち止まらない」(14年2月)

P・内山聖子、演出・堀川とんこう

山田洋次監督作品

竹下さん 「男はつらいよ」

橋爪さん 「東京家族」(家族はつらいよ)(1く

3)

倉本脚本作品

竹下さん 「北の国から」他が、映像、画像で紹介され、3人の作品について語られた。

竹下 「北の国から」の前に、TBSの金曜ドラマで「白い影」というのが私、初めてTBSのドラマに出していた、その1作目が倉本先生で、当時は必ず本読みを全員がスタッフもキャストも集まって、頭から最後まで読んで、そして収録のときもドライバーハーサルっていうのを、後ろの方に出番のある人も朝一番にそのためにだけに時間を割いて、みんなが揃ってドライバーハーサルをした。そういう時代だったんです。倉本先生は、いつも本読みにいらいしやいました。そして、その間(ま)が大事ですっていうことをおっしゃいます。それは北の国からに入っても同じです。北の国からは富良野が舞台なんで、よくロケ現場を覗いて下さいまして、よく、お宅にみんなが集まって、反省会じゃないですよ、楽しく倉本

先生の…。

橋爪 普段はいい人なんだよ。現場は厳しい。

「あのさー」って言うのを「あのねー」って言ったら、マイク持って、ホンには「さー」って書いてあるだろうって万座の前で言うんですね。

竹下 それは変わらないですね。

橋爪 はい。厳しかったですよ。

渡辺 山田太一さんは、やっぱりこの人も厳しいといわれますが。

橋爪 静かな方ですよ。そうですね、あんまりおっしゃらない。

渡辺 だけど、ズバツと仰るんじゃないですか？

橋爪 いや、僕は言われたことない。

渡辺 堀川さんがね、「僕は山田太一さんのドラマやると、やりようがないんです」って、「やりようがないっていうのは、下手なやり方をすると、何かどうも駄目になっちゃあう…」。素直に本の通りに撮っていくっていうのが一番いいみたいで、いや、実は僕は何もしてないですよ」とおっしゃったことがある。

演ずる方としては、何か特段山田太一さんだからということ意識するようなことってあるんですか。

橋爪 とんこうさんだったかな、太一さんにほとんど何もしなかったと思います。先ほどの作品でお会いしたときにも、山田さん、不機嫌ではなかったことだけは覚えてる。特に吉行(和子)さんに対しては不機嫌ではなかったですね。

あと山田洋次さんって方は、映画見るとわかるんですけど、カット尻と、次のシーンのカットの頭に、ものすごく神経使っているんですよ。だから出来上がると、ほぼそのままフィルムをつなげると、もう出来上がっている感じの撮り方だから、カット頭、カット尻に関し

ては、きちんと出される方ですね。実際には編集は多少するんでしょうけど。

渡辺 要するにのりしろあんまり取らないで、きっちりその計算通り撮ろうと。

橋爪 いやなんでしようね、のりしろ取るのが…と勝手に僕が思ってるだけかもしれない。でもほとんどそうです。

(山田監督のポスター映像を見ながら)

渡辺 いま、丁度、小津安二郎監督作品の映像が出ました。これは、「東京家族(12年)ですね。『小津監督に捧げる』というクレジットもありましたね。これは、「家族はつらいよ(16年)・18年・パート1, 2, 3)ですね。

老人版寅さんみたいな、非常にやんちゃな親父でしたね。

橋爪 今は映画も、パート2と3で精一杯ね。

昔はもうちよつとやってくれたんだけど、今は、お客さんの気が持たないというかね。

竹下 続けてほしいと思いますけれども。

橋爪 一つには今ここにいらっしゃるお客様、皆さんがお分りになっているように、日本語で結構乱れますでしよう。それで、昔の映画見ると、日本語が綺麗なんだよね。

僕よりもっと上の方で、その人の職業までわかるように喋ってくれる人がいなくなりました。あと、山田監督がずいぶん仰ってました。

それはもう無理ですけど、なんといいたらいいか、両方知っている俺としては、ちよつと言葉が貧しくなってきたりして。しかも役者にとつて言葉って一番大事っていうか、武器になるからね。

三毛子以外に二人の共演はすくない!!

渡辺 竹下さんと橋爪さんとの共演って意外ですね、調べてみたら三毛子以外あんまりないですね。

浅田次郎さんの原作「魚害にて」(07年、テレ

ビ東京、松原敏春脚本 というのが、夫が西田

敏行さん、妻が竹下さん、その兄が淀橋に住んでいる橋爪さん。(ロケのスタイルを見て)

ボケてる手前が橋爪さん。淀橋中学校の校庭で男二人がキャッチボールをしながら、朝礼の竹下さんが校歌を歌うシーン。演出は、石橋冠さん。覚えていらつしやいますか？

橋爪 冠さんのことはもちろんよく覚えてます。キャッチボールしたってことはよく覚えてる。あとは、忘却の彼方に行ってしまう、みたいな…。

渡辺 それからもう一つ。これは「私が私であるために」(06年日本テレビ)という性同一障害をテーマに扱った作品があるんですよ。

竹下 そうです、そうです。

橋爪 (スタイルを見て) これ、俺？

渡辺 ちよつとボケてますが、ボケてるって、映像がボケてるんで(会場爆笑)…。

橋爪 性転換ですね。

渡辺 映像の左手の方がまさに「本人ですよ

ね。

橋爪 彼女とは結構いっぱい話しをしました…。

渡辺 なんていうか、考えさせるいいドラマですね。以上2作以外、共演はありませんね。

竹下 はい。

渡辺 もつとあつていいですよ。

橋爪 いや、だから、景子さんはデビューしてザーツと二線級ですよ。私は40ぐらいからやっとテレビに出るようになって、その前はずっとモグラのように地の下這っていたから、接点がないんですよ。だから、とんこうさんとか、そういう方と一緒だと、やつと接点ができたけど…。

渡辺 変な言い方ですけど、ビックが二つ並んで、よほど企画に自信がなければ、2人一緒につていうのはやはり厳しいんじゃないですか？

か？

橋爪 私ビックじゃないですから…。(笑い)

ラジオ新日曜名作座、私もやりたかった!!

渡辺 話が変わりますが、竹下さん、ラジオの「新日曜名作座」(R1、08年4月〜19:20)がありますね。



竹下 西田敏行さんと私とで、かれこれ16年になります。NHKの方が森繁久彌さんと加藤道子さん50年勤められたんで、あと、50年目指して頑張ってくださいっておっしゃったんですけど、私もそんな年ではないので、でもまだまだやらせていただきたいと思つてます。

橋爪 日曜名作座、俺、心の中ではですよ、本当言ううと、森繁さんの後は俺が狙ってたんですけど、うん、誰にも勿論言つてませんよ。でも、俺んとこへ、絶対来るだろうなと思つてたんだ。

竹下 へえー。  
橋爪 案に相違して、こなかった…。  
竹下 どうしてでしょうか…。

渡辺 橋爪さんのセリフの切れの良さっていうのは有名な話、市川さんの「夢暦長崎奉行」がありました、あのナレーション、特に時代劇のナレーションだと抜群です。

橋爪 それは顔でないからね。(笑) 役者やりだして、15年ぐらいでラジオだけで食べてたんですよ。朗読、ドラマ、ラジオはすごく使ってたんですよ。安かったんですけどねえ、ギャラは。

竹下 顔が出ませんからかね。

橋爪 確か千円ぐらいですよ、それが何年も続くんですよ。源泉入れて千百十円、顔面が千円なるように貰うんです。よくわかんないですが、見るのも悲しくなっちゃうぐらい、ちょっとずつ上がっていくんですよ。だから、後年、僕のギョランティは、そのランクが落ちませんから、今もそうだと思うんだけど、上がる一方だから、天井知らずになってるそうですね。(笑)

竹下 でもラジオドラマがたたくさんあった時代って、今思うと豊かですよ。

橋爪 それとやっぱり、ディレクターもすごい人がいっぱいいたんですよ。

竹下 倉本先生がね、ラジオドラマをたまに書かれています。以前、吉村昭さんの「龍風」をTBSでラジオドラマ化(80年、脚本・倉本聡主演・高倉健)したのを聞きましてけど、今、私達が聞くとそうそうたる作家の皆さんが書いてらっしゃるんですよ。

橋爪 何だろう。作家と放送、テレビを含めてだけど、距離が何かもつとフランクで近かったような気がする時代でした。

竹下 そうですか。

橋爪 お互いに尊敬はしてんだけど、そんなにもつと近くて、いろんな実験が双方でできたような。

渡辺 そんなの作家の方が、新しいメディアである放送ドラマについて興味があったというところはありますよね。平岩昌枝さんが、こないだ亡くなりましたけれど、小説と脚本の間を実際に往復するような形でやりましたか

ら、そういう意味で近かったという感じですね。

お二人の舞台公演を期待したい

渡辺 最後に、舞台の話をお願いします。竹下さんは学生演劇をやったそのままだビューして、橋爪さんは文学座研究所から文学座、劇団「雲」ですよ。橋爪さんも、竹下さんも、舞台をずーっとコンスタントにやっていて、去年、竹下さんは鴻上尚史さんと組んで、鈴木福ちゃん、「アカシアの雨が降る時」(23年10月)をやっていますね。痴呆症になって、自分が10代だと思ひ込んでしまっ…。

竹下 20歳の大学生の頃に戻ってしまうお婆さんでした。孫の福くんが恋人だというふうに思ひ込んで。

渡辺 なかなか面白い、実にロマンチックな話でもありました。

次に、橋爪さんの15年の舞台『Le Père 父』(ル・ペール)があります。

橋爪 戯曲はフランスの劇作家のフロアリアン・ゼレル。演出もフランス人のラディスラス・シヨラー。

渡辺 痴呆症の親父が、ほんとのところ、全く痴呆症かなにかも分からない、なかなか、変な芝居なんですけど…。

竹下 中学生の父親の主観で語られる物語はあんまりないっていうことを思いましたね。素晴らしいと思いました。

渡辺 これはほんとおもしろかった。ということで、お二人にお聞きしますが、これから何かやる芝居の計画はあるんですか？

橋爪 竹下さん、エネルギッシュなんだから、どんどんやりなさいよ。

渡辺 老人性痴呆症同士？(笑)

竹下 司法書士はやっておられますけど。(笑) 渡辺 こう言つと失礼かもしれませんが、舞台

は役者さんと少数の人間で企画できるじゃないですか、ものすごく人と金をかけてやる映画だとかテレビに比べて、遜色ないぐらいインパクトがあるものができると思うんですけどね。先ほど、共演が二つしかなかったと言っていました。ぜひ3度目の共演を舞台でやっていただくと嬉しいし、私自身は思いますが。

竹下 そうですね。夢のような話ですね。

渡辺 この座談会は、ちよつと地味ですけど「放送人の云の会報」に詳細を載せます、そうすると業界人もそれを見ることが多いので、ちよつとここで宣伝しておけばですね、誰か手を挙げて企画しようって言うてくるかも知れない。

橋爪 今度は弟の役でお願いしますね。

竹下 こだわられてますけどね。

橋爪 はい。

竹下 私は構いませんが…(笑)。

今の自分は、こうして在る。

渡辺 さて、お2人も、50年60年の芸歴を持つていらして、なおかつ今、第一線で活躍しているのというは、稀有な存在だと思うんですけど。最後になりましたけど、お一人ずつ、今、何ゆえ、こういう立場でおられるのか、自己分析をしていただけませんか？

竹下 いつの間にか、今日になってたつていう感じなんですけれど、でも周りの方には恵まれて、テレビもそうですし、仕事として舞台で、役を演じるのは20代後半からだっただけですけども、そこもやはり出会いだと思っ

です、一つ一つを大事にして、現場で一つ一つ覚えていった結果が今なんだというふうに思っているの、まだまだなんです。まだまだと思ってるから、興味もあるんですけどね。橋爪さんに、ちよつと鼻で笑われちゃいましたけ

どね、橋爪さん、どうぞ。

橋爪 僕ね、もういいやと思ってるんで、なんて言ったらいいんだろう、やはり、一人じゃできないもんですからね。やっぱり才能あるとか、ハートの多い人とか、そういう人とお目にかかれないう、僕等って、何もできないんじゃないですか。だから、今まで本当に良かったなと思いますよ。できれば、これからは運が続けばいいなと思うけど、こればかりはしょうがないね。竹下さんとの繋がりを、これから大事にして、生きて。

渡辺 ありがとうございます、お話は尽きませんが、最後に、竹下さんのお若い時代、キラキラした純粋なまっすぐな目で助左衛門さんへの助力を頼み込むというシーンの映像を見ていただきます。78年「黄金の日」市川森一脚本から、お相手は栗原小巻さんです。(2分ほどの映像が紹介され、拍手のうちに終了)。

渡辺 (拍手) 25歳の竹下景子さんの映像でした。ということ、もう時間です。ゲストのお二人には、いろいろお話しをありがとうございました。(天拍手)

## 第92回放送人句会

令和五年十月十日(火)於 赤坂・麦屋  
出席 中村フミ 林備後 佐々木光野  
近藤久仁 深尾一化 松田幸雄

(以上六名)

兼題 栗 肌寒 案山子  
(業界用語) カンペ

神たればかかしたるべき匂ひあり 備後  
木犀の香も映りしやオンエア 幸雄  
オンエアセットの裏から鉦叩き 幸雄  
枯島に背広姿の案山子かな 幸雄

